

授業科目名: 心理学

担当教員: 谷口 慶子

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

①記憶の心理 ②動機の心理 ③性格・知能の心理 ④発達の心理 ⑤心理アセスメントの概要 ⑥行動する人間の理解 について 理解する。

(教育目標)

心理学上の重要な概念を幅広く理解する。またそうすることで国家試験に備える。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	オリエンテーション 記憶のしくみ(記憶とは何か、感覚記憶、短期記憶、ワーキングメモリー、長期記憶)	谷口 慶子	講義
2	2	記憶のしくみ(忘却、エピソード記憶と意味記憶、展望記憶、記憶方略)	谷口 慶子	講義
3	2	学習理論とその発展	谷口 慶子	講義
4	2	感情・動機・欲求・葛藤とは何か	谷口 慶子	講義
5	2	動機付け(内発的動機付け・外発的動機付け)、性格について(類型論と特性論、心理検査)	谷口 慶子	講義
6	2	対人知覚、態度(態度変容、バランス理論、認知的不協和理論)、説得的コミュニケーション	谷口 慶子	講義
7	2	社会と集団の心理(原因帰属、集団心理)、認知について	谷口 慶子	講義
8	2	乳幼児・学童の発達について	谷口 慶子	講義
9	2	青年の発達について	谷口 慶子	講義
10	2	成人の発達について	谷口 慶子	講義
11	2	高齢者の発達について	谷口 慶子	講義
12	2	知能検査について(知能理論、ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査)	谷口 慶子	講義
13	2	精神分析について(無意識、転移・逆転移、防衛機制)	谷口 慶子	講義
14	2	心理療法①(催眠療法、精神分析療法…夢分析、自由連想法)	谷口 慶子	講義
15	2	心理療法②(行動療法、認知療法、認知行動療法、内観療法、絵画療法、箱庭療法、その他)	谷口 慶子	講義

総括的評価

出席点30点(欠席するごとに-2点。1/3欠席した時点で出席点は0点となる)+ミニテストの総点数(1回10点満点)+期末試験(100点満点)の合計点を100点換算した点数で評価。

教科書:系統看護学 基礎分野 心理学(医学書院)

参考書:随時必要な資料はプリントにて配布する

その他の資料:

担当教員から

今まで意識してこなかった心の動き、行動、脳機能に意識を向け、今までの自身の経験に当てはめることで自己理解を深めてほしい。また、自己理解から他者理解へと意識を広げ、将来医療従事者として対象者に向き合う場面に生かして欲しい。

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

私たちが生きている現代社会の実情をいろいろな角度から見つめ直し、正しいものの見方・考え方を探求する。

(到達目標)

「哲学する」ことの意味、私たちの知識、人間のとらえ方、社会で生じている(とくに医療、環境)問題を検討し、今後の生き方についての土台形成をめざす。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	「哲学」についてのイメージ、「哲学」という言葉の由来	種村 完司	講義
2	2	「哲学する」きっかけ、哲学は役に立つか	種村 完司	講義
3	2	医療と哲学 — 身体や病気をどうみるか	種村 完司	講義
4	2	「リンゴは赤いか」「見えるものはすべて真実か」	種村 完司	講義
5	2	「こころ」と「からだ」(その1)	種村 完司	講義
6	2	「こころ」と「からだ」(その2)	種村 完司	講義
7	2	人間とはどういう存在か、人間の尊厳とは	種村 完司	講義
8	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題(1) — 「脳死」と死の判定	種村 完司	講義
9	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題(2) — 「臓器移植」	種村 完司	講義
10	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題(3) — 「安楽死」	種村 完司	講義
11	2	現代医療の中で発生している哲学・倫理問題(4) — 「尊厳死」と緩和ケア	種村 完司	講義
12	2	地球環境・生態系はどういう現状か	種村 完司	講義
13	2	環境問題をめぐってどんな倫理が必要か(その1)	種村 完司	講義
14	2	環境問題をめぐってどんな倫理が必要か(その2)	種村 完司	講義
15	2	「持続可能な社会」にむけて私たちがすべきこと	種村 完司	講義

総括的評価

毎回の感想文と終講後の定期試験(筆記試験)に評価します。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照してください。

教科書: 特になし。授業中にプリント配布。

参考書: 授業の中で紹介する

その他の資料: 授業中、必要な資料を配布する

担当教員から

私たちの周りにある出来事や現実をよく見すえながら、今日の社会の中でどう判断し、どう行動し、どう生きていったらよいかについて、じっくり考える機会にしよう。

1年次 前期（1単位：30時間）

（授業概要）

「教育」とは、「人間」とはという根本的な問いから始まり、改めて教育・学びの意味を再確認することで、今後の自分の在り方、勉強に対する姿勢を見直す。また、現在学校が抱えている課題や、国際化・多文化共生という視点からも教育の意義を考えていく。

（到達目標）

人間が生きていく上での「教育」の意義について再認識し、理解を深める。また、国際化が進む中で、多文化共生を目指す社会における「教育」の在り方を考える。さらに、医療現場における学び・人間関係・教育の在り方についても改めて考える。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	ガイダンス	山下 みどり	講義
2	2	よい教育ってどんな教育	山下 みどり	講義
3	2	教育を社会の視点から考えてみよう	山下 みどり	講義
4	2	子どもという存在／人間という存在	山下 みどり	講義
5	2	教え方は試行錯誤されてきた	山下 みどり	講義
6	2	教育を受ける権利	山下 みどり	講義
7	2	子どもの学びを支える仕組み	山下 みどり	講義
8	2	子どものための学校ってどんな学校？	山下 みどり	講義
9	2	学校では何を学ぶの？	山下 みどり	講義
10	2	よい先生ってどんな先生？	山下 みどり	講義
11	2	どんなふうに子どもに接したらよいのか？	山下 みどり	講義
12	2	子どもがよく学ぶためには？	山下 みどり	講義
13	2	学校を卒業したら学ばなくてもよいのか？	山下 みどり	講義
14	2	教育と学校の未来はどうなるの？	山下 みどり	講義
15	2	まとめ	山下 みどり	講義

総括的評価

各授業で配布するプリント提出、授業態度、定期(筆記)試験による評価
定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照

教科書： 特になし。授業中にプリント配布。

参考書：

その他の資料：授業で適宜配布する。

担当教員から

教育も医療も人と人との関わりの中で成立しているものと言える。教えるということだけが教育ではなく、学び合うこそ教育の原理であり、学校という枠の中だけで行われるものを指すのではない。人は一生学び続ける生き物であり、だからこそ成長し喜怒哀楽という感情を備え、常に発達し続けるものである。学ぶ喜び、教育の大切さを再認識できる場になればと考える。

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

①社会福祉に必要な基礎知識を学ぶことをねらいとし、わが国における人口の高齢化の背景やその特徴、地域福祉や生活保護、高齢者虐待、政権後見制度等を多面的に学び、高齢者や障害者等が生活する「現代社会」について理解し、そのうえで、生活状況の実際や生活の中から生まれてくる福祉ニーズとはどのようなものなのかについて理解する。
 ②社会福祉の理念や意義について理解させ、社会福祉の歴史、制度や法体制、社会福祉サービスの役割と活動、社会福祉専門職の役割について理解させる。また、現在の社会福祉の動向と問題、これからの課題を理解させる。利用者を中心に各専門職の連携の意義や必要性について理解する。

(到達目標)

①社会福祉に関する基礎知識について理解し、福祉専門職と連携していく視点を意識していく。また、介護保険制度や地域包括支援センター、権利擁護についての理解や地域福祉を始め保健・医療・福祉における連携について理解する。さらに、社会福祉における現代社会の課題を理解し、社会福祉とリハビリテーションとのつながりを考える。
 ②社会福祉学の概念・対象・分野について学び、各専門職の現状・課題について理解したうえで、連携のあり方について学習する。その上で保健医療福祉の公的介護保険制度、障害者自立支援法等の福祉関係制度、法規、保健・医療制度、社会保険制度を含めた社会保障を学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	社会福祉学の概観と平均寿命、高齢化、健康寿命、要介護高齢者の推移	重久 晃一	講義
2	2	高齢者をとりまく社会環境の変化と介護保険制度の誕生	重久 晃一	講義
3	2	介護保険制度とは、目的、特徴、課題	重久 晃一	講義
4	2	介護保険制度について(利用の流れ、サービス事業者、職種等事例含む)	重久 晃一	講義
5	2	孤独死や悪徳商法、地域包括支援センターの概要、役割や課題、事例含む)	重久 晃一	講義
6	2	介護予防、地域包括ケアシステムについて、地域福祉の担い手(ボランティアやNPO等、事例含む)	重久 晃一	講義
7	2	権利擁護とは、日常生活自立支援事業(事例含む)、成年後見制度(事例含む)	重久 晃一	講義
8	2	高齢者虐待防止法(概要や現状、課題、事例含む)、生活保護制度(原理・原則、保護の種類)	重久 晃一	講義
9	2	「現代社会と社会福祉」・社会福祉制度の成立と社会福祉サービスを理解する。	重久 晃一	講義
10	2	「医療保険と年金制度」・医療保険と諸年金制度の背景と成立を理解する。	重久 晃一	講義
11	2	「児童家庭福祉の現状と及び課題」・児童家庭福祉の理念と家族の現状を考える。	重久 晃一	講義
12	2	「障がい者福祉サービスの現状と課題」・障害の考え方と国際的な流れを理解する。	重久 晃一	講義
13	2	「地域福祉サービスの現状と課題」・地域社会と福祉サービスの結びつきを考える。	重久 晃一	講義
14	2	「保健・医療・福祉サービス」・健康増進や疾病予防のための様々な公的サービスについて考える。	重久 晃一	講義
15	2	「社会福祉の課題と動向」・社会福祉基礎構造改革の背景について学び今後の福祉制度を考える。	重久 晃一	講義

総括的評価

定期(前期)試験にて行う。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：
 専門基礎分野 系統看護学講座「社会保障・社会福祉-健康支援と社会保障精度3」医学書院
 授業中にプリント配布。

参考書：

その他の資料：
 社会福祉関連した新聞記事等

担当教員から

①実践の場で提供されている多職種連携について理解を深めること。また、普段から新聞やテレビのニュース等を通して社会福祉やそこで起きている問題などに関心を持ってもらいたい。
 ②国試対策にも考慮した授業内容に心がけますが、自分なりに予習復習をして、授業に臨んでください。疑問点は、そのままにせず、質問してください。

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

医療専門職として身につけるべき職業意識を育成し、理学療法学の基礎を形成する理論や理学療法を実施していく上で必要な知識の習得を促す。

(到達目標)

医学における基礎領域の科学である「生物学」を学ぶことは、学生にとって広い視野を持ち、自立した専門家となるために不可欠な基礎能力を高めることであるといえる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	生物学の概念と全体像をつかむために	鮫島 正道	講義
2	2	生命体のつくりとはたらき(生物学における構造と機能について)	鮫島 正道	講義
3	2	生体維持のエネルギー(生物内の化学反応について)	鮫島 正道	講義
4	2	細胞の増殖とからだのなりたち(細胞分裂・細胞の分化・細胞の老化)	鮫島 正道	講義
5	2	遺伝情報とその伝達・発達のしくみ(遺伝の法則と染色体)	鮫島 正道	講義
6	2	生殖と発生(無性生殖と有性生殖)1	鮫島 正道	講義
7	2	生殖と発生(無性生殖と有性生殖)2	鮫島 正道	講義
8	2	個体の調節(ホメオスタシス・各器官系のはたらきについて)1	鮫島 正道	講義
9	2	個体の調節(ホメオスタシス・各器官系のはたらきについて)2	鮫島 正道	講義
10	2	刺激の受容と行動(神経系における情報処理の特徴)1	鮫島 正道	講義
11	2	刺激の受容と行動(神経系における情報処理の特徴)2	鮫島 正道	講義
12	2	生命の進化と多様性(進化のしくみについて)1	鮫島 正道	講義
13	2	生命の進化と多様性(進化のしくみについて)2	鮫島 正道	講義
14	2	生物と環境のかかわり(生物の集団・生態系の経済について)1	鮫島 正道	講義
15	2	生物と環境のかかわり(生物の集団・生態系の経済について)2	鮫島 正道	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:系統看護講座 基礎分野 生物学 (医学書院電子テキスト)

参考書:随時、必要な資料はプリントして配布する。

その他の資料:

担当教員から

生物学は「生物」に関する知識を集大成した学問分野です。また、生物を学ぶことで、生理学や解剖学にも通じるところが多々あるため、その他の学習事項の理解が進むことを願っています。

1年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

ニュートン力学について、いろいろな法則や仕組みについて学び、関節にみられるてこやモーメントの仕組みについて学ぶ。ここで学ぶ「力学」とは、重力が存在する地上において、ヒトが動作(運動)を行う際にどのように「力」が作用しているかを考える学問である。「バイオメカニクス」という言葉が最終的にどのようなものか理解し、説明できるようになるために講義を展開する。

(到達目標)

ニュートン力学やてこの原理を理解し、理学療法学作業療法の治療に応用できるようになる。また、理学療法国家試験や作業療法国家試験の物理分野の問題は解けるようになる。具体的には、①身体の運動を記述する基本的な方法を把握する。②身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。③力が与える作用を、量的な表現である仕事やエネルギーなどの概念を用いて説明できる。④関節運動を回転運動としてとらえ、その作用を説明できる。これらを到達目標とする。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	総論 古典物理学と現代物理学、ニュートン力学と運動の法則	立石 洋	講義
2	2	物理学で使用される単位と数学(三平方の定理、三角関数)、力の合成と分解	立石 洋	講義
3	2	力の合成と分解、生体におけるてこ	立石 洋	講義
4	2	重心の求め方	立石 洋	講義
5	2	重心の速度・加速度	立石 洋	講義
6	2	床反力と重心加速度	立石 洋	講義
7	2	床反力作用点(GOP)とは何か	立石 洋	講義
8	2	関節モーメントと筋活動	立石 洋	講義
9	2	関節モーメントとパワー	立石 洋	講義
10	2	ジャンプ動作のバイオメカニクス	立石 洋	講義
11	2	立ち上がりのバイオメカニクス	立石 洋	講義
12	2	歩き始めのバイオメカニクス	立石 洋	講義
13	2	歩行のバイオメカニクス1 重心と床反力作用点	立石 洋	講義
14	2	歩行のバイオメカニクス2 重心の動きを滑らかにする機能	立石 洋	講義
15	2	歩行のバイオメカニクス4 歩行の観察-OGIGの方法-	立石 洋	講義

総括的評価

筆記試験と課題提出(身の回りで観察される物理現象についてのレポート)を合わせ総括的に評価し単位認定を行います。

教科書:基礎バイオメカニクス第2版、基礎運動学第6版補訂

参考書:

その他の資料:必要に応じてプリントを配ります。

担当教員から

物理はわかりにくい部分もありますが、身の回りで起こっている事象や身体の運動に関わる物理現象を理解することで、理学療法士、作業療法士の業務に関係する治療機器の仕組みや運動のメカニズムとそれが障害された際に出現する症状とその治療を理解しやすくなると思います。

1年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

臨床研究を行ううえでは、研究法の理解はもとより取得したデータの特徴や様相を解析するために、統計学の基礎知識が必須となる。研究成果を臨床に活かす立場としても根拠に基づいてリハビリテーションを実践するうえで研究報告を正しく解釈するためにも、統計学は必要な知識となる。

(教育目標)

データを取得したときにどのような統計手法を適用させ、結果を得た時にどのように解釈するか、またその注意点などについて具体例をあげて解説することで、実践のための基礎知識の習得を目標とする。また、コンピュータ(表計算ソフトや統計解析プログラムパッケージ)を利用したデータ分析の方法について演習を通して学ぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	統計学の基礎知識	田川 知恵子	講義
2	2	データの尺度・特性値・グラフ	田川 知恵子	講義
3	2	推定と検定の基礎	田川 知恵子	講義
4	2	2標本の差の検定---パラメトリック法(1)	田川 知恵子	講義
5	2	1標本の差の検定---パラメトリック法(2)	田川 知恵子	講義
6	2	差の検定---ノンパラメトリック法	田川 知恵子	講義
7	2	相関・回帰分析	田川 知恵子	講義
8	2	分割表の検定	田川 知恵子	講義
9	2	一元配置分散分析、反復測定分散分析	田川 知恵子	講義
10	2	診断の指標	田川 知恵子	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:
「すぐにできるリハビリテーション統計」山本 澄子、谷 浩明 監修(南江堂)
統計ソフトを使用するためパソコンが必要です。

参考書:
「リハビリテーション統計学」石川 朗、種村 留美 総編集(中山書店)

その他の資料:

担当教員から

医療に携わるうえで、疾患を患った人の集団を治療や研究の対象にし、効果があった/なかったという客観的な判断ができるために、統計学の力を借りてデータを扱う経験が重要であると考えます。何となくでも統計学を活用する場面をイメージできるように、学習を進めてみてください。

1年次 前期（1単位：20時間）

（授業概要）

健康・体力の維持・増進を図るため、身体運動及びスポーツの実習を行う。実習を通じて自主的・合理的に、生涯にわたる自己の心身の健康管理、及びスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を育成する。

（到達目標）

生涯にわたる自己の健康管理とスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を習得する。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	オリエンテーション：整列の練習、選択種目の決定	三腰 茉依	演習
2	2	球技：バレーボール	三腰 茉依	演習
3	2	球技：バレーボール	三腰 茉依	演習
4	2	球技：バレーボール	三腰 茉依	演習
5	2	球技：バレーボール	三腰 茉依	演習
6	2	球技：バスケットボール	三腰 茉依	演習
7	2	球技：バスケットボール	三腰 茉依	演習
8	2	球技：バスケットボール	三腰 茉依	演習
9	2	球技：バスケットボール	三腰 茉依	演習
10	2	球技：バスケットボール	三腰 茉依	演習

総括的評価

各種目終了時に実技評価、及び参加態度で総合的に評価する。

教科書：

参考書：

その他の資料：

担当教員から

運動・スポーツを日常生活に取り入れ、授業時間以外の時間帯にも積極的にスポーツに親しむなど、学生生活に反映できればより望ましい。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

1年次 後期（1 単位：20 時間）

（授業概要）

健康・体力の維持・増進を図るため、身体運動及びスポーツの実習を行う。実習を通じて自主的・合理的に、生涯にわたる自己の心身の健康管理、及びスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を育成する。

（到達目標）

生涯にわたる自己の健康管理とスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を習得する。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	球技：バドミントン	三腰 茉依	演習
2	2	球技：バドミントン	三腰 茉依	演習
3	2	球技：バドミントン	三腰 茉依	演習
4	2	球技：バドミントン	三腰 茉依	演習
5	2	球技：バドミントン	三腰 茉依	演習
6	2	球技：フットサル	三腰 茉依	演習
7	2	球技：フットサル	三腰 茉依	演習
8	2	球技：フットサル	三腰 茉依	演習
9	2	球技：フットサル	三腰 茉依	演習
10	2	球技：フットサル	三腰 茉依	演習

総括的評価

各種目終了時に実技評価、及び参加態度で総合的に評価する。

教科書：

参考書：

その他の資料：

担当教員から

運動・スポーツを日常生活に取り入れ、授業時間以外の時間帯にも積極的にスポーツに親しむなど、学生生活に反映できればより望ましい。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

1年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

学園の校歌を習得し、式典などで歌えること。音楽療法を考え、音楽効果が身体に作用することを考える。

(教育目標)

音楽において、〈歌う〉とはもっとも基本的かつ表現において最も重要な要素の一つである。また最も身近な音楽行為でもある。すぐれた作品を鑑賞することによって、そこに表現された人間の心をまなぶ。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	オリエンテーション 校歌を覚える	柏木 祐香	演習
2	2	歌唱活動 グループ作曲	柏木 祐香	演習
3	2	歌唱活動 ブーンワッカーを使った演奏①	柏木 祐香	演習
4	2	歌唱活動 ブーンワッカーを使った演奏②	柏木 祐香	演習
5	2	歌唱活動 ブーンワッカーを使った演奏③発表	柏木 祐香	演習
6	2	歌唱活動 リズム演奏	柏木 祐香	演習
7	2	歌唱活動 コップを使ったリズム創作①	柏木 祐香	演習
8	2	歌唱活動 コップを使ったリズム創作②	柏木 祐香	演習
9	2	歌唱活動 コップを使ったリズム創作③	柏木 祐香	演習
10	2	歌唱活動 コップを使ったリズム創作発表	柏木 祐香	演習

総括的評価

レポートにて成績判定を行う

教科書: 学園歌集

参考書:

その他の資料:

担当教員から

音楽の内面をいろいろな角度からみつめることによって、「音楽」が人間に及ぼすプラスアルファといったものをみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

社会生活を営む上で人との関係は必要不可欠なものである。人間関係を理解する上で大切なことは、まず自分を理解することである。本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要な「今ここにおける自分自身の状況を客観視できる力」や「自分の周りに影響を与える気持ちや態度」を高めるための演習等を通して、コミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させること、自己理解、心と心の通い合いによって生まれる温かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。

(到達目標)

1. 自分を理解することに取り組み、自己理解を深めることができる。
2. 対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解できる。
3. 言語・準言語・非言語コミュニケーションについて具体的に説明できる。
4. 基本的なコミュニケーションスキル「みる」「聴く」「伝える」を理解できる。
5. 「傾聴」の基本を学び、具体的な方法について説明できる。
6. 感情に関する基本を理解し、自分の感情をコントロールする取り組みを始めることができる。
7. 自分も相手も大切にしたい伝え方「アイメッセージ」を学び具体的な方法について説明できる。
8. 自分も相手も大切にしたい自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、方法について説明できる。
9. 医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めることができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	「PT/OTを目指すあなたへ」 1. 授業概要説明 2. 対人援助職としてのPT/OT 3. PT/OTに必要なコミュニケーション力	山下 みどり	講義
2	2	自己理解(I) 1. 自己概念 2. 自分の性格と傾向	山下 みどり	講義
3	2	自己理解(II) 1. 他者からみた自分 2. 自己開示	山下 みどり	講義
4	2	自己理解(III) 1. 自己存在についての意識 2. 自分の態度	山下 みどり	講義
5	2	人間関係と対人コミュニケーション(I) 1. 人間の心を理解する (1)心の構造 (2)心の機能:人間理解のための方法	山下 みどり	講義
6	2	人間関係と対人コミュニケーション(II) 1. 対人コミュニケーション分析 (1)対話から理解する方法 (2)人間関係を円滑にする対話	山下 みどり	講義
7	2	人間関係と対人コミュニケーション(III) 1. 存在への働きかけ (1)存在認知の種類 (2)対人関係を良好にする働きかけ	山下 みどり	講義
8	2	コミュニケーション力を育もう(I) 1. 言語・準言語コミュニケーション 2. 非言語コミュニケーション	山下 みどり	演習
9	2	コミュニケーション力を育もう(II) 1. 「聞く」と「聴く」	山下 みどり	演習
10	2	コミュニケーション力を育もう(III) 1. 傾聴トレーニング	山下 みどり	演習
11	2	コミュニケーション力を育もう(IV) 1. 伝える 2. 報告する	山下 みどり	演習
12	2	自律した自分になろう 1. 医療者に必要な感情管理 2. 自分の感情をコントロールする方法	山下 みどり	演習
13	2	コミュニケーションスキル(I) 自分も相手も大切にしたい伝え方 1. アイメッセージ	山下 みどり	演習
14	2	コミュニケーションスキル(II) 自分と相手を大切にしたい自己主張 1. アサーティブネス	山下 みどり	演習
15	2	自律した自分になろう 1. 自己管理 2. メンタルヘルス対策	山下 みどり	演習

総括的評価

受講態度・意欲等(30%), 課題提出と記述内容(30%), 終講試験(40%)

教科書: 特になし。授業中にプリント配布。

参考書: 「PT・OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版」 山口美和著 医学書院 2016年

その他の資料: 必要に応じて資料やワークシートなどを配布します。

担当教員から

- ①本講義では演習を多く取り入れます。積極的な取り組みを期待します。
- ②人とかかわりを通して、自分をそして他者を理解し、新たな自分を発見してください。
- ③本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい状況にある人は、無理せず遠慮なく申し出てください(申し出により不利になるようなことはありません)。

授業科目名: 臨床IT

担当教員: 藤村 勇人
田川 知恵子

2年次 後期(1 単位:20 時間)

(授業概要)

がん医療についての知識、周術期、化学療法・放射線治療、リハビリテーションについて学習する。

(到達目標)

がんについての基礎的な知識を習得し、リハビリテーションにおける理学療法の役割を理解する。
リスクを考慮しながら治療や生活環境整備の計画を立案することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	第1章 がんのリハビリテーション概論	藤村 勇人	講義
2	2	第2章 周術期リハビリテーション	藤村 勇人	講義
3	2	第3章 化学療法・放射線療法	藤村 勇人	講義
4	2	第5章 リンパ浮腫	藤村 勇人	講義
5	2	第6章 緩和ケアが主体となる時期	藤村 勇人	講義
6	2	発達障害に対する運動療法(分類・評価)	田川 知恵子	講義
7	2	発達障害に対する運動療法(アプローチの考え方)	田川 知恵子	講義
8	2	発達障害に対する運動療法(アプローチの実際①)	田川 知恵子	演習
9	2	発達障害に対する運動療法(アプローチの実際②)	田川 知恵子	演習
10	2	まとめ(第6回～第9回)	田川 知恵子	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。提出されたレポートを基に評価を行う。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書: 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 がんのリハビリテーション【電子版】. 辻哲也編. 医学書院

参考書: がんがみえる. 医療情報科学研究所編. メディックメディア
こどもの理学療法第2版、千住 秀明監修、神陵文庫

その他の資料: 教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

教科書に沿った資料を配布します。ファイルやノート(ルーズリーフなど)を準備し管理をしてください。

1年次 後期(1単位： 30時間)

(授業概要)

教本を通して英文の知識を深め、外国社会への関心を持ちながら、英語の読解力を身につける。

(教育目標)

英文を正しく理解し、内容把握ができるようにする。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	Unit1 病院の受付場面	上村 真之	講義
2	2	Unit2 検査、指示、体の部位	上村 真之	講義
3	2	Unit3 入院手続き、病院内施設、献立	上村 真之	講義
4	2	Unit4・5 病院の案内、道順、問診、初診	上村 真之	講義
5	2	Unit6・7 問診、初診、基本の質問、検査後、いろいろな問診	上村 真之	講義
6	2	Unit8・9 病室での会話、痛みの伝え方	上村 真之	講義
7	2	Unit10・11 リハビリ いろいろ指示、はげましながら、様子をききながら	上村 真之	講義
8	2	Unit12・13 リハビリ 可動域訓練、ベッドサイド訓練	上村 真之	講義
9	2	Unit14・15 車椅子、マット上訓練	上村 真之	講義
10	2	Unit16・17 立ち上がる訓練、歩行訓練	上村 真之	講義
11	2	Unit18・19 呼吸・排痰、温熱	上村 真之	講義
12	2	Unit20 水、利き手交換、会話テスト準備	上村 真之	講義
13	2	医療器具、語彙、会話テスト準備	上村 真之	講義
14	2	会話テスト	上村 真之	講義
15	2	会話テスト	上村 真之	講義

総括的評価

筆記による定期試験を実施する。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：20Medical Dialogos8(弓プレス)

参考書：

その他の資料：

担当教員から

英語の基礎を復習し、その後教科書に入っていきます。予習・復習を欠かさないこと。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

1年次 前期（1単位：30時間）

（授業概要）

実習先や実際の職場では、挨拶・返事・相手を尊重した言葉遣い、動作、きちんとした立ち居振る舞いが信頼される要素となる。また専門知識はもちろん、現場ではコミュニケーション能力が重要視される。そのような社会人としての基本を身に付ける。さらに、語彙や表現方法に注意しながら、目的に合った文章を書いてみる。また、「文章読解・作成能力検定」3級に合格することを目指す。

（到達目標）

- 1 社会人として知っておきたい基本的な敬語、漢字、ことわざ等を学ぶ
- 2 文章を読んで筆者の言いたいことを理解する・・・相手の気持ちを汲み取る
- 3 相手に伝わる意見文を書く・・・自分の言いたいことを客観的にきちんと伝える

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	授業オリエン、なぜ国語力が必要か？、T.P.Oに合わせた自己紹介、語彙ドリル	大橋 晶子	講義
2	2	語彙ドリル、『ステップ』第一章 語彙・文法（意味・用法）	大橋 晶子	講義
3	2	語彙テスト、『ステップ』第一章 語彙・文法（文法）	大橋 晶子	講義
4	2	語彙ドリル、『ステップ』第二章 資料分析（グラフ・表の読みとり）	大橋 晶子	講義
5	2	語彙ドリル、『ステップ』第二章 資料分析（分析の注意点）	大橋 晶子	講義
6	2	語彙テスト、『ステップ』第三章 文章読解（指示語等、段落）	大橋 晶子	講義
7	2	語彙ドリル、『ステップ』第三章 文章読解（構成、要旨）	大橋 晶子	講義
8	2	語彙ドリル、『ステップ』第四章 手紙文（手紙の知識、敬語）	大橋 晶子	講義
9	2	語彙テスト、『ステップ』第四章 手紙文（適切な表現、推敲）	大橋 晶子	講義
10	2	語彙ドリル、『ステップ』第五章 意見文（事実・意見・感想、意見文の構成）	大橋 晶子	講義
11	2	語彙ドリル、『ステップ』第五章 意見文（理由の述べ方のポイント、意見文作成）	大橋 晶子	講義
12	2	語彙テスト、『ステップ』第五章 意見文（解説、書き直し、清書）	大橋 晶子	講義
13	2	語彙ドリル、『ステップ』まとめ問題	大橋 晶子	講義
14	2	語彙ドリル、文章検3級過去問題（実施）	大橋 晶子	講義
15	2	語彙テスト、文章検3級過去問題（解説、意見文清書）	大橋 晶子	講義

総合的評価

小テスト、提出物、定期試験による評価、定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：『基礎から学べる！文章カステップ文章検3級対応』（公益財団法人日本漢字能力検定協会）※授業で使用。
『文章検公式テキスト3級』（公益財団法人日本漢字能力検定協会）※宿題として毎回、学習部分を宿題として使用。

参考書：必要に応じて提示

その他の資料：その他適宜配布

担当教員から

読解力は相手の言わんとすることを汲み取ることに、また文章力は自分の言いたいことを相手に伝えることにつながります。医療現場ではコミュニケーション力が必要だということを認識し、信頼される医療人となるべく国語力を高めて欲しいです。

授業科目名：解剖学 I

担当教員：田川 知恵子

1年次 前期(3単位：60時間)

寺師 拓斗
藤村 勇人

(授業概要)

本科目の授業では、身体の働きと構造を総合的・体系的に学習する。1年次の理学療法評価学、さらに、2年次の専門分野を学習するための基礎となる知識として必要な身体器官の正常構造や機能と基本的学術用語について理解を深める。

(到達目標)

1. 細胞・組織・器官・器官系の階層構造について説明できる。
2. 骨格全体の構成や特徴、個々の骨の名称や数を正確に説明できる。
3. 脳の構造と機能を理解し、高次脳機能との関連について説明できる。
4. 中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	第2章 骨格①(頭蓋)	田川 知恵子	講義
2	2	第2章 骨格②(頭蓋)	田川 知恵子	講義
3	2	第2章 骨格③(脊柱)	田川 知恵子	講義
4	2	第2章 骨格④(脊柱)	田川 知恵子	講義
5	2	第2章 骨格⑤(胸郭)	田川 知恵子	講義
6	2	第2章 骨格⑥(上肢の骨)	寺師 拓斗	講義
7	2	第2章 骨格⑦(上肢の骨)	寺師 拓斗	講義
8	2	第2章 骨格⑧(下肢の骨)	寺師 拓斗	講義
9	2	第2章 骨格⑨(下肢の骨)	寺師 拓斗	講義
10	2	第3章 関節と靭帯(関節靭帯総論、各論①頭蓋の連結、②脊柱、脊柱・頭蓋・胸郭の連結)	寺師 拓斗	講義
11	2	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論③上肢の連結)	寺師 拓斗	講義
12	2	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論④下肢の連結)	寺師 拓斗	講義
13	2	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論まとめ、理学・作業療法との関連事項)	寺師 拓斗	講義
14	2	第4章:筋系(筋系総論①筋組織の種類と特徴、②骨格筋の構造、③作用、④神経支配)	藤村 勇人	講義
15	2	第4章:筋系(筋系各論①体幹の筋)	藤村 勇人	講義
16	2	第4章:筋系(筋系各論②上肢の筋)	藤村 勇人	講義
17	2	第4章:筋系(筋系各論③下肢の筋)	藤村 勇人	講義
18	2	第4章:筋系(筋系各論まとめ、理学・作業療法との関連事項)	藤村 勇人	講義
19	2	第5章 末梢神経系①(頭神経叢/腕神経叢/胸神経叢)	田川 知恵子	講義
20	2	第5章 末梢神経系②(腰神経叢/仙骨神経叢)	田川 知恵子	講義
21	2	第5章 自律神経系	田川 知恵子	講義
22	2	第5章 中枢神経系⑥(脳幹:大脳半球/間脳)	寺師 拓斗	講義
23	2	第5章 中枢神経系⑥(脳幹:大脳半球)	寺師 拓斗	講義
24	2	第5章 中枢神経系②(脳幹:延髄)	寺師 拓斗	講義
25	2	第5章 中枢神経系③(脳幹:橋/中脳/網様体)	寺師 拓斗	講義
26	2	第5章 中枢神経系⑤(脳幹:小脳)	寺師 拓斗	講義
27	2	第5章 神経路①(上行性伝導路)	寺師 拓斗	講義
28	2	第5章 神経路②(下行性伝導路)	寺師 拓斗	講義
29	2	第5章 脳神経①(第Ⅰ～第Ⅵ脳神経)	田川 知恵子	講義
30	2	第5章 脳神経②(第Ⅶ～第Ⅻ脳神経)	田川 知恵子	講義

総括的評価

配点については、中間試験(40%)、終講後に筆記試験(60%)を実施、合算し、合格者には単位を認定する。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

テキスト及び参考文献

- 教科書：①標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、野村巖編集、医学書院(電子教科書)
②系統看護学講座基礎分野 生物学 第10版、高畑雅一・他著、医学書院(電子教科書)
③スクエア最新図説生物neo九訂版、吉里勝利監修、第一学習者
④基礎運動学 第6版補訂、中村隆一・他著、医歯薬出版株式会社
⑤標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、岡田隆夫・他著、医学書院(電子教科書)

参考書：「カラー人体解剖学」井上 貴央 (西村書店) その他、配布資料あり

その他の資料：教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

教科書や参考書による視覚情報では3次元の知覚ではないので人体の内部のような立体構造物を本の上で理解する場合には困難さが伴います。そこを補う意味で、解剖標本、スライドなどを用い人体の立体構造とその働きを学んでください。人体の機能分野の対象は広く、しかし講義では限られた項目しか取り扱えないため、皆さんには十分な復習をすること、興味をもった分野は自分でさらに学習していくことを期待します。

(授業概要)

PT・OTなどの医療職に就くために必要な医学の基礎となる正常な人体の構造について、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系(教科書では泌尿生殖器系)、内分泌系、免疫系に関して、まずは総論として内臓系の名称、位置関係を概説し、その後各論として各器官系の構造について理解を深める。(免疫系は教科書では各項目に分散されている。)

(行動目標)

1. 感覚器系では、皮膚感覚・視覚器・平衡聴覚器の構造とその感覚機能について関連づけて説明できる。
2. 内臓系は構造体・位置関係とその名称を図示、説明できる。
3. 内分泌系は分泌されるホルモンとその主要作用を説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	第6章 感覚器系①(外皮/嗅覚器/味覚器)	田川 知恵子	講義
2	2	第6章 感覚器系②(視覚器)	田川 知恵子	講義
3	2	第6章 感覚器系③(平衡聴覚器)	田川 知恵子	講義
4	2	第10章 感覚と知覚(適刺激と閾値、受容野、側抑制)	田川 知恵子	講義
5	2	第10章 感覚と知覚(適刺激と閾値、受容野、側抑制)	田川 知恵子	講義
6	2	第10章 感覚と知覚(体性感覚の受容器・伝導路、体性感覚、内臓感覚、特殊感覚)	田川 知恵子	講義
7	2	第7章 呼吸器系(鼻・咽頭・喉頭・気管および気管支の構造)	立石 洋	講義
8	2	第7章 呼吸器系(肺・胸膜と縦隔の構造、理学・作業療法との関連事項)	立石 洋	講義
9	2	第13章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
10	2	第14章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
11	2	第7章 内臓器官の全体構造および基本構造	寺師 拓斗	講義
12	2	第7章 循環器系(循環路の全体像および血管構造の相違)	寺師 拓斗	講義
13	2	第7章 循環器系(心臓の構造的特徴と刺激伝導系、胸部・腹部の循環路)	寺師 拓斗	講義
14	2	第7章 循環器系(上下肢、頭頸部の循環路、特殊循環系、胎児循環)	寺師 拓斗	講義
15	2	第7章 循環器系(リンパ系、理学・作業療法との関連事項)	寺師 拓斗	講義
16	2	第7章:消化器系(口腔、咽頭、食道、胃の構造)	藤村 勇人	講義
17	2	第7章:消化器系(小腸、大腸、肝臓、胆嚢の構造)	藤村 勇人	講義
18	2	第7章:消化器系(小腸、大腸、肝臓、胆嚢の構造)	藤村 勇人	講義
19	2	第7章 消化器系(膵臓・腹膜の構造、理学・作業療法との関連事項)	藤村 勇人	講義
20	2	第7章 泌尿系(腎臓・尿管・尿道の構造、尿の生成と排泄のしくみの概略)	立石 洋	講義
21	2	第7章 生殖器系(男性・女性生殖器の構造、卵巣周期の概略、理学・作業療法との関連事項)	立石 洋	講義
22	2	第7章 内分泌系(ホルモンと標的器官、内分泌腺の種類)	立石 洋	講義
23	2	第20章 内分泌(ホルモンと内分泌系の概要と調節機序、各器官のホルモンの種類と作用①)	立石 洋	講義
24	2	第20章 内分泌(ホルモンと内分泌系の概要と調節機序、各器官のホルモンの種類と作用②)	立石 洋	講義
25	2	第20章 内分泌(ホルモンと内分泌系の概要と調節機序、各器官のホルモンの種類と作用③)	立石 洋	講義
26	2	第21章 生殖(性分化、男性生殖生理、女性生殖生理)	立石 洋	講義
27	2	第19章 体温とその調節	立石 洋	講義
28	2	第19章 体温とその調節	立石 洋	講義
29	2	まとめ①	各担当教務	講義
30	2	まとめ②	各担当教務	講義

総括的評価

配点については、終講後に筆記試験を実施、合算し、合格者には単位を認定する。
定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

テキスト及び参考文献

- 教科書：①標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、野村嶺編集、医学書院(電子教科書)
②系統看護学講座基礎分野 生物学 第10版、高畑雅一・他著、医学書院(電子教科書)
③スクエア最新図説生物neo九訂版、吉里勝利監修、第一学習者
④基礎運動学 第6版補訂、中村隆一・他著、医歯薬出版株式会社
⑤標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、岡田隆夫・他著、医学書院(電子教科書)

参考書：「カラー人体解剖学」井上 貴央 (西村書店) その他、配布資料あり

その他の資料：適宜資料を印刷、配布します。

担当教員から

解剖学を暗記で乗り切るのは困難を極めます。生理学・運動学と関連付けて「ヒト」を理解するためのツールとして使いこなせるように頑張りましょう。

(授業概要)

PT・OTなどの医療職に就くために必要な医学の基礎となる正常な人体機能について、細胞レベル・組織・器官さらには系統レベルで学び、生命現象を理解するための考え方、基本的学術用語と身体の仕組み働きについて理解を深める。私たちの身体の中には胃や腸、心臓などの内臓系、骨や筋、神経などの筋骨格系などさまざまな器官・組織があるが、これらは互いに独立して働いているわけではなく、筋運動をすることで心拍が速くなることからわかるように、相互に密接に関連しながら機能している。このような機能の調節も含めて、トータルとしての人体の構造と機能、特に機能を中心として理解することを目標とする。

(到達目標)

- 1.生理学において学ぶ言葉を述べ、その意味を説明することができる。
- 2.生体恒常性とそれに関わる身体反応について説明することができる。
- 3.人体の構造と機能をマクロ・ミクロの両面から系統的に学び、説明することができる。
- 4.各器官およびその系統における機能について調節系も含め、説明することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	解剖学用語と人体の区分/人体の発生	田川 知恵子	講義
2	2	人体の構成(細胞/組織/器官, 器官系, 個体)	田川 知恵子	講義
3	2	骨の形態/骨の構造	田川 知恵子	講義
4	2	骨の血管と神経/骨の機能/骨の発生・リモデリング	田川 知恵子	講義
5	2	第5章 筋と骨(筋の分類と構造)	立石 洋	講義
6	2	第5章 筋と骨(筋の分類と構造)	立石 洋	講義
7	2	第6章 筋と骨(興奮収縮連関, 不応期, 単収縮と強縮)	立石 洋	講義
8	2	第6章 筋と骨(興奮収縮連関, 不応期, 単収縮と強縮)	立石 洋	講義
9	2	第1章 序論、生命現象と人体(身体の階層性、生命現象、浸透圧、低張・高張・等張、ホメオスタシス)	立石 洋	講義
10	2	第2章 細胞の一般的な構造および機能((細胞内小器官)	立石 洋	講義
11	2	第3章 細胞膜における物質輸送と信号伝達(細胞膜の機能性タンパク質、受動輸送、能動輸送)	立石 洋	講義
12	2	第3章 細胞膜における物質輸送と信号伝達(細胞膜の機能性タンパク質、受動輸送、能動輸送)	立石 洋	講義
13	2	第4章 細胞膜の興奮(静止電位、活動電位、受容体による信号伝達)	立石 洋	講義
14	2	第4章 細胞膜の興奮(静止電位、活動電位、受容体による信号伝達)	立石 洋	講義
15	2	第6章 神経の興奮伝達(神経細胞、活動電位の伝導、全か無のSD曲線)	立石 洋	講義
16	2	第6章 神経の興奮伝達(神経細胞、活動電位の伝導、全か無の法則、SD曲線)	立石 洋	講義
17	2	第7章 興奮の伝達と抑制(シナプス伝達、神経伝達物質)	立石 洋	講義
18	2	第7章 興奮の伝達と抑制(筋紡錘、ゴルジ臓器、伸張反射、筋電図)	立石 洋	講義
19	2	第8章 運動と姿勢の制御(運動単位、脊髄の構造、脊髄反射)	藤村 勇人	講義
20	2	第8章 運動と姿勢の制御(運動単位、脊髄の構造、脊髄反射)	藤村 勇人	講義
21	2	第8章 運動と姿勢の制御(脊髄の障害、異常筋緊張、自律神経系)	藤村 勇人	講義
22	2	第8章 運動と姿勢の制御(脊髄の障害、異常筋緊張、自律神経系)	藤村 勇人	講義
23	2	第8章 運動と姿勢の制御(脊髄の障害、異常筋緊張、自律神経系)	藤村 勇人	講義
24	2	第8章 運動と姿勢の制御(脳幹、小脳)	寺師 拓斗	講義
25	2	第8章 運動と姿勢の制御(大脳基底核、視床)	寺師 拓斗	講義
26	2	第8章 運動と姿勢の制御(大脳皮質)	寺師 拓斗	講義
27	2	第9章 脳の総合機能(大脳皮質の機能局在、伝導路(上行路と下行路))	寺師 拓斗	講義
28	2	第9章 脳の総合機能(大脳皮質の機能局在、伝導路(上行路と下行路))	寺師 拓斗	講義
29	2	第9章 脳の総合機能(大脳皮質の機能局在、伝導路(上行路と下行路))	寺師 拓斗	講義
30	2	第9章 脳の総合機能(連合野、辺縁系、高次脳機能)	寺師 拓斗	講義

総括的評価

配点については終講後に筆記試験を実施、合算し、合格者には単位を認定する。
定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

- 教科書:①標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、野村巖編集、医学書院(電子教科書)
②系統看護学講座基礎分野 生物学 第10版、高畑雅一・他著、医学書院(電子教科書)
③スクエア最新図説生物neo九訂版、吉里勝利監修、第一学習者
④基礎運動学 第6版補訂、中村隆一・他著、医歯薬出版株式会社
⑤標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、岡田隆夫・他著、医学書院(電子教科書)

参考書:「カラー人体解剖学」井上 貴央 (西村書店) その他、配布資料あり

その他の資料:教科書の内容にかなりの不足があるため内容に沿った授業プリント(補足プリント)を配布し、その資料で授業を行います。

担当教員から

教科書の章、項目に沿った授業プリントを配布し授業を行うので、その授業プリントと自分でとったノート(ルーズリーフなど)と一緒に紙ファイルにファイリングしてください。授業後、自宅にて授業プリント・ノートを教科書と照らし合わせながら復習を行い、翌日、授業ファイルを提出してください。ノート未提出者は減点します。欠席者は後日補講を行い、翌日に復習ノートを提出。

1年次 後期(3単位： 60時間)

(授業概要)

PT・OTなどの医療職に就くために必要な医学の基礎となる正常な人体機能について、細胞レベル・組織・器官さらには系統レベルで学び、生命現象を理解するための考え方、基本的学術用語と身体の仕組み働きについて理解を深める。私たちの身体の中には胃や腸、心臓などの内臓系、骨や筋、神経などの筋骨格系などさまざまな器官・組織があるが、これらは互いに独立して働いているわけではなく、筋運動をすることで心拍が速くなることからわかるように、相互に密接に関連しながら機能している。このような機能の調節を含めて、トータルとしての人体の構造と機能、特に機能を中心として理解することを目標とする。

(到達目標)

- 1.生理学において学ぶ言葉を述べ、その意味を説明することができる。
- 2.生体恒常性とそれに関わる身体反応について説明することができる。
- 3.人体の構造と機能をマクロ・ミクロの両面から系統的に学び、説明することができる。
- 4.各器官およびその系統における機能について調節系も含め、説明することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	第10章 感覚と知覚(体性感覚の受容器・伝導路、体性感覚、内臓感覚、特殊感覚)	田川 知恵子	講義
2	2	第10章 感覚と知覚(体性感覚の受容器・伝導路、体性感覚、内臓感覚、特殊感覚)	田川 知恵子	講義
3	2	第10章 感覚と知覚(体性感覚の受容器・伝導路、体性感覚、内臓感覚、特殊感覚)	田川 知恵子	講義
4	2	第11章 自律機能と本能行動(交感神経と副交感神経)	田川 知恵子	講義
5	2	第11章 自律機能と本能行動(交感神経と副交感神経)	田川 知恵子	講義
6	2	第12章 血液(赤血球、白血球、免疫系、血小板、凝固系、線溶系、血液型)	田川 知恵子	講義
7	2	第12章 血液(赤血球、白血球、免疫系、血小板、凝固系、線溶系、血液型)	田川 知恵子	講義
8	2	第12章 血液(赤血球、白血球、免疫系、血小板、凝固系、線溶系、血液型)	田川 知恵子	講義
9	2	第13章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
10	2	第13章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
11	2	第13章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
12	2	第13章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
13	2	第13章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
14	2	第13章 呼吸(呼吸と呼吸器、呼吸運動、肺機能検査、ガス交換、ガス運搬、酸塩基平衡、呼吸調節)	立石 洋	講義
15	2	第14章 心臓(心臓の構造と機能、心筋の電位特性、心電図、ポンプ機能)	寺師 拓斗	講義
16	2	第14章 心臓(心臓の構造と機能、心筋の電位特性、心電図、ポンプ機能)	寺師 拓斗	講義
17	2	第14章 心臓(心臓の構造と機能、心筋の電位特性、心電図、ポンプ機能)	寺師 拓斗	講義
18	2	第14章 心臓(心臓の構造と機能、心筋の電位特性、心電図、ポンプ機能)	寺師 拓斗	講義
19	2	第14章 心臓(心臓の構造と機能、心筋の電位特性、心電図、ポンプ機能)	寺師 拓斗	講義
20	2	第15章 循環(循環系の構造と機能、血行力学、血圧、循環調節、特殊循環)	寺師 拓斗	講義
21	2	第15章 循環(循環系の構造と機能、血行力学、血圧、循環調節、特殊循環)	寺師 拓斗	講義
22	2	第15章 循環(循環系の構造と機能、血行力学、血圧、循環調節、特殊循環)	寺師 拓斗	講義
23	2	第16章 消化と吸収(消化管の構造、各部での運動と機能(口腔～嚥下、胃、小腸、大腸))	藤村 勇人	講義
24	2	第16章 消化と吸収(消化管の構造、各部での運動と機能(口腔～嚥下、胃、小腸、大腸))	藤村 勇人	講義
25	2	第16章 消化と吸収(消化管の構造、各部での運動と機能(口腔～嚥下、胃、小腸、大腸))	藤村 勇人	講義
26	2	第17章 栄養と代謝(栄養素と代謝、糖質代謝、脂質代謝、蛋白質代謝、エネルギー)	藤村 勇人	講義
27	2	第17章 栄養と代謝(栄養素と代謝、糖質代謝、脂質代謝、蛋白質代謝、エネルギー)	藤村 勇人	講義
28	2	第18章 尿の生成と排泄(腎臓の機能的構造、尿生成の機序と調節、ホルモンによる体液量調節、排尿の機序)	立石 洋	講義
29	2	第18章 尿の生成と排泄(腎臓の機能的構造、尿生成の機序と調節、ホルモンによる体液量調節、排尿の機序)	立石 洋	講義
30	2	第18章 尿の生成と排泄(腎臓の機能的構造、尿生成の機序と調節、ホルモンによる体液量調節、排尿の機序)	立石 洋	講義

総括的評価

配点については、終講後に筆記試験を実施、合算し、合格者には単位を認定する。
定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：①標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、野村巖編集、医学書院(電子教科書)
②系統看護学講座基礎分野 生物学 第10版、高畑雅一・他著、医学書院(電子教科書)
③スクエア最新図説生物neo九訂版、吉里勝利監修、第一学習者
④基礎運動学 第6版補訂、中村隆一・他著、医歯薬出版株式会社
⑤標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、岡田隆夫・他著、医学書院(電子教科書)

参考書：「カラー人体解剖学」井上 貴央 (西村書店) その他、配布資料あり

その他の資料：教科書の内容にかなりの不足があるため、教科書の内容・項目に沿った授業プリント(補足プリント)を配布し、その資料で授業を行います。

担当教員から

教科書の章、項目に沿った授業プリントを配布し授業を行うので、その授業プリントと自分でとったノート(ルーズリーフなど)と一緒に紙ファイルにファイリングしてください。授業後、自宅にて授業プリント・ノートを教科書と照らし合わせながら復習を行い、翌日、授業ファイルを提出してください。ノート未提出者は減点します。欠席者は後日補講を行い、翌日に復習ノートを提出。

1年次：前期(2 単位：40 時間)

(授業概要)

解剖学・生理学の基礎的知識をもとに、「なぜ人間は運動することが出来るのか」ということを考えながら、運動学の基礎的語句を覚え、また「骨」「筋」を中心とした構造上の特徴を理解する。
また前期では上肢の運動学(手を除く)についても学習する。

(教育目標)

正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、
①リハビリテーションに必要な運動学的用語
②「骨」「筋」の基本的構造や運動のメカニズム
について学習する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	オリエンテーション「運動学とは」 運動面と運動軸について	吉野 慶子	講義
2	2	関節運動の方向、骨の構造と機能、循環系と神経系	吉野 慶子	講義
3	2	骨の構成成分、骨の発生と成長、骨とビタミンホルモン	吉野 慶子	講義
4	2	関節の構造と機能「関節の分類」	吉野 慶子	講義
5	2	関節の構造と機能「関節軟骨」「関節包」「滑膜」「滑液」「関節円板と半月」	吉野 慶子	講義
6	2	骨格筋の構造と血管構造	吉野 慶子	講義
7	2	骨格筋の微細構造と筋収縮機序	吉野 慶子	講義
8	2	筋線維の種類と神経筋接合部と神経伝達について	吉野 慶子	講義
9	2	運動単位、神経支配比について	吉野 慶子	講義
10	2	筋収縮の様態について	吉野 慶子	講義
11	2	筋の働き、筋肥大と筋萎縮	吉野 慶子	講義
12	2	上肢筋の確認	吉野 慶子	演習
13	2	上肢帯と上肢の運動	吉野 慶子	講義
14	2	腕神経叢について走行確認	吉野 慶子	講義
15	2	上肢の筋・神経支配	吉野 慶子	講義
16	2	上肢帯と肩関節 ①「関節と靭帯」「上肢帯と肩関節での上腕の動き」	吉野 慶子	講義
17	2	上肢帯と肩関節 ②「上肢帯の筋」「肩関節の筋」	吉野 慶子	講義
18	2	肘関節と前腕の運動 ①「関節と靭帯」「肘関節における前腕の動き」	吉野 慶子	講義
19	2	肘関節と前腕の運動 ②「肘関節の筋」	吉野 慶子	講義
20	2	まとめ	吉野 慶子	講義

総括的評価

カリキュラムガイダンスに則り、終講試験にて判定する。

教科書：中村隆一 齋藤宏 長崎浩著 「基礎運動学」第6版補訂，医歯薬出版株式会社

参考書：

その他の資料：

担当教員から

運動学は理学療法を学ぶにあたり基礎となる主要な授業科目です。準備および復習が必要となります。
注： 必要に応じてこの授業の内容を変更することがあります。

1年次：後期(2 単位：40 時間)

(授業概要)

前期で学習した人体の構造と運動について、下肢・体幹の運動学を中心に、講義・実習により更に深く追求し、理解する。

(教育目標)

人間の正常動作を実際に行い、これを測定・記載し、運動学の知識を身につける。
 前期の運動学で学んだ基礎的な知識をもとに、身体運動のメカニズムを理解する。
 1. 下肢帯と下肢の運動を理解し、実習によって各関節の運動軌跡や運動制限因子を明確にする。
 2. 体幹の機能を解剖学の観点から脊柱の運動と範囲を明確にし、分析する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	手関節と手の運動 ①「手の皮膚・骨」「手の関節と靭帯」	吉野 慶子	講義
2	2	手関節と手の運動 ②「手指の筋」	吉野 慶子	講義
3	2	手関節と手の運動 ③「手指の筋」「手の変形」	吉野 慶子	講義
4	2	下肢の構造「骨構造」「血管・神経」	吉野 慶子	講義
5	2	下肢の筋と運動	吉野 慶子	講義
6	2	股関節の運動 ①「構造」	吉野 慶子	講義
7	2	股関節の運動 ②「関節と靭帯」「股関節の動き」	吉野 慶子	講義
8	2	股関節の運動 ③「股関節の筋」	吉野 慶子	講義
9	2	膝関節の運動 ①「構造」	吉野 慶子	講義
10	2	膝関節の運動 ②「関節と靭帯」「膝関節の動き」	吉野 慶子	講義
11	2	膝関節の運動 ③「膝関節の筋」	吉野 慶子	講義
12	2	足の関節と足の運動 ①「構造」	吉野 慶子	講義
13	2	足の関節と足の運動 ②「関節と靭帯」	吉野 慶子	講義
14	2	足の関節と足の運動 ③「足の筋」「足のアーチと変形」	吉野 慶子	講義
15	2	体幹の運動	吉野 慶子	講義
16	2	顔面および頭部の運動	吉野 慶子	講義
17	2	姿勢	吉野 慶子	講義
18	2	歩行	吉野 慶子	講義
19	2	運動学習	吉野 慶子	講義
20	2	まとめ	吉野 慶子	講義

総括的評価

口頭試問(20%)、および講後に筆記試験(80%)を実施し合格者には単位を認定する。
 受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：中村隆一 齋藤宏 長崎浩著「基礎運動学」第6版補訂，医歯薬出版株式会社

参考書：

その他の資料：随時配布

担当教員から

運動学実習は理学療法士の臨床活動を科学的に裏付ける学問です。解剖学や整形外科の関連項目を整理し、準備する必要があります。注： 必要に応じてこの授業の内容を変更することがあります。

1年次 後期(1単位：20時間)

(授業概要)

胎児期から新生児期、乳児期、学童期から、青年期、老年期に至るまでの、身体的な発育・発達及び精神的な発達を学び、それぞれの時期の発達の特徴を体系的に理解する。また、発育・発達に関する因子と発達理論及び発達評価法の概略を学ぶ。

(教育目標)

- 1.運動発達の評価手順を説明できる。
- 2.各月齢に応じたの姿勢・移動動作発達の特徴を説明できる。
- 3.代表的な発達評価と運動発達評価の名称をあげることができ、さらにそれらの特徴を説明できる。
- 4.脳性麻痺の概念(定義)、疫学、原因と病理、分類(病型など)について説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	原始反射・立ち直り反射・平衡反応の分類および診かた(名称・中枢・検査方法・判定・障害)について①	田川 知恵子	講義
2	2	原始反射・立ち直り反射・平衡反応の分類および診かた(名称・中枢・検査方法・判定・障害)について②	田川 知恵子	講義
3	2	誘発手技と反応について	田川 知恵子	講義
4	2	正常運動発達と異常運動発達①(各月齢に応じた発達の説明)	田川 知恵子	講義
5	2	正常運動発達と異常運動発達②(異常運動発達は、どのように出現し発達するか)	田川 知恵子	講義
6	2	運動発達検査①(デンバー発達スクリーニング、遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、Wee-FIM)	田川 知恵子	講義・演習
7	2	運動発達検査②(粗大運動能力分類(GMFCS)、粗大運動評価尺度(GMFM)、PEDI)	田川 知恵子	講義・演習
8	2	脳性麻痺概要①(定義、原因、分類、随伴症状、筋緊張、病型と障害部位)	田川 知恵子	講義
9	2	脳性麻痺概要②(定義、原因、分類、随伴症状、筋緊張、病型と障害部位)	田川 知恵子	講義
10	2	まとめ	田川 知恵子	講義

総括的評価

定期的に小テストを、終講後に定期試験(共に筆記試験)を実施し、合格者には単位を認定する。
定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:「人間発達学 2021年版」奈良 勲 監修(医学書院電子テキスト)
「理学療法評価学第3版 2021年版」奈良 勲 監修(医学書院電子テキスト)
「小児科学第5版 2021年版」奈良 勲 監修(医学書院電子テキスト)

参考書:「小児理学療法学テキスト 改訂第3版」細田 多穂 監修(南江堂)

その他の資料: 授業開始前までに別途指示する

担当教員から

子どもの理学療法的第一步として、「相手を知る」こと、つまり対象である子どもについての情報を得ることから始まります。その中で、子どもの正常発達、特に運動発達についての知識や評価は重要となります。私達自身が乳児期の頃に戻って発達過程をみていく気持ちで取り組んでください。

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

エゴグラムの意味を知り、自己理解を深めるとともに、対人関係の基本を身につける。

(教育目標)

①対人関係の姿を交流分析の理論を元に理解する。②交流分析の理論を元に自己理解を深め、自己の成長に役立てる。(治療的自我の活用を心がける。)

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	自己のエゴグラムを作成する／交流分析を学ぶ目的を考える／治療的自我について	俵積田 大志	講義
2	2	交流分析の基本的な考え方(自己の感情・考え・行動の責任について)	俵積田 大志	講義
3	2	自我状態について(P/A/C)①	俵積田 大志	講義
4	2	自我状態について(P/A/C)②	俵積田 大志	講義
5	2	いろいろなエゴグラム(仕事中毒タイプ/肥満症)	俵積田 大志	講義
6	2	いろいろなエゴグラム(うつ病タイプ/非行少年)	俵積田 大志	講義
7	2	エゴグラムを用いた自己変容について	俵積田 大志	講義
8	2	ストロークの種類(陽性の無条件・条件付き/陰性の無条件・条件付き)	俵積田 大志	講義
9	2	やり取りの分析(相補的やり取り・交差的やり取り)	俵積田 大志	講義
10	2	やり取りの分析(隠されたやり取り/セラピストとしてのやり取りの仕方について)	俵積田 大志	講義
11	2	ストローク経済の法則について①	俵積田 大志	講義
12	2	ストローク経済の法則について②	俵積田 大志	講義
13	2	①ゲームの公式②ゲームの目的	俵積田 大志	講義
14	2	①脚本とは②脚本の成り立ち(禁止令・ドライバー)	俵積田 大志	講義
15	2	まとめ/交流分析をの活用の仕方	俵積田 大志	講義

総括的評価

筆記試験にて行います

教科書: 交流分析入門(チーム医療)

参考書:

その他の資料:

担当教員から

リハビリテーションは、対象者が主体的に取り組むことで、その効果が最大になります。その主体性を引き出すために、セラピストとして、自己活用出来るようになることを願っています。

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

病理学は病気を科学的に理解するための基礎的な考え方を学ぶ学問領域である。「解剖学」や「生理学」で学習した人体の正常な構造・機能に関する知識を基礎として、疾病(病気)の原因とその発生進展過程について系統的に理解し、臨床の現場で遭遇する可能性のある疾病(病気)を理解するための基盤を形成することを目的とする。病理学総論に重点を置き、代表的な疾病に言及しながら講義形式で教授する。

(教育目標)

- ① 先天異常(遺伝性疾患・奇形・染色体異常)および老化について説明できる。
- ② 細胞傷害と代謝障害・進行性病変に含まれる諸概念について説明できる。
- ③ 循環障害の種類と、それぞれの発生機構について説明できる。
- ④ 炎症の定義と分類について説明し、炎症性疾患・免疫異常について説明できる。
- ⑤ 腫瘍を定義し、良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴と相違点について説明できる。
- ⑥ 腫瘍の発生・進展メカニズム、悪性腫瘍の疫学的事項について説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	病理学の概要・病因	吉田 愛知	講義
2	2	退行性病変(変性・萎縮・細胞死)	吉田 愛知	講義
3	2	物質代謝障害と蓄積・先天性代謝障害	吉田 愛知	講義
4	2	進行性病変(肥大と過形成・化生・再生)	吉田 愛知	講義
5	2	循環障害Ⅰ(動脈硬化と疾患)	吉田 愛知	講義
6	2	循環障害Ⅱ(うっ血、充血、出血、血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫、ショックなど)	吉田 愛知	講義
7	2	炎症と免疫・免疫異常(自己免疫疾患、アレルギー、免疫不全)	吉田 愛知	講義
8	2	炎症反応と疾患・感染症	吉田 愛知	講義
9	2	腫瘍Ⅰ(定義、良性と悪性の相違点)	吉田 愛知	講義
10	2	腫瘍Ⅱ(腫瘍の発生と進展・浸潤と転移)	吉田 愛知	講義
11	2	腫瘍Ⅲ(疫学・臨床病期・治療・予防)	吉田 愛知	講義
12	2	遺伝性と病気(遺伝のメカニズムと遺伝性疾患)	吉田 愛知	講義
13	2	先天異常(奇形・染色体異常)	吉田 愛知	講義
14	2	老化と疾病・病理検査	吉田 愛知	講義
15	2	日本人の病気・病理学まとめ	吉田 愛知	講義

総括的評価

終講試験で評価する。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:系統看護学講座 病理学第4版2021年度版 (医学書院電子テキスト)

参考書:ロビンス基礎病理学(第8版)、豊國伸哉・高橋正英監訳、丸善出版
ロス&ウィルソン 健康と病気のしくみがわかる解剖生理学(改訂版) A ウォー他著、西村書店

その他の資料:必要に応じてプリントを配布する。

担当教員から

授業をよく聴いて、授業後に簡単に復習することを怠らないこと。授業終了後講義室で、随時質問等に応じる。

授業科目名：一般臨床医学(一般臨床医学・薬理学・リハビリテーション栄養・救急医学)

担当教員：立石 洋
上野 多吉子
福島 洋子

1年次 後期(2単位：60 時間)

(授業概要)

1.救急救命医療の概要と救急処置法について概説する。リハビリテーション医療や医療福祉の分野必要な救急病態を理解し、心肺蘇生、呼吸管理等の救急救命医療について学習する。次に、外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、老年医学領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。
2.栄養学は、健康・医療福祉・スポーツなど多くの領域に関わっている。健康と栄養に対する理解を深めるために、栄養学と病態・疾病の食事療法に関する基本を学び、将来のリハビリテーションの現場に立つときの力を身につける。主に、配布資料等を用いて講義する。
3.薬理作用の発現(疾患への適用)について薬物動態を中心に授業を進める。

(到達目標)

1.救急救命医療の病態を理解し、心肺蘇生、呼吸管理等の救急処置法を理解・修得する。
2.外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、老年医学領域の代表的疾患について、特徴的病態、症状、検査、評価、治療を説明できる。
3.外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、老年医学領域の疾患の症例を担当した場合に、医師や看護師に対してリハビリテーション専門職としての情報収集ができる。
4.消化・吸収の仕組み、および五大栄養素の働きを理解し、リハビリテーションにおける栄養ケアの役割を理解して説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	救命救急医療における心肺蘇生法・ショック対応	立石 洋	講義
2	2	救命救急医療における呼吸管理	立石 洋	講義
3	2	救命救急医療における中心静脈栄養・輸血療法	立石 洋	講義
4	2	救命救急医療における救急処置・ICUの役割	立石 洋	講義
5	2	外科的処置(機械的損傷・非機械的損傷)	立石 洋	講義
6	2	外科的処置(感染性疾患・末梢血行障害・腫瘍・臓器移植)	立石 洋	講義
7	2	脳神経外科概論 1. 解剖生理 2. 症候と病態 3. 補助診断法 4. 主な疾患	立石 洋	講義
8	2	皮膚疾患概論 1. 解剖生理 2. 症候と病態 3. 補助診断法 4. 主な疾患	立石 洋	講義
9	2	泌尿器科・生殖器疾患概論 1. 解剖生理 2. 症候と病態 3. 補助診断法 4. 主な疾患	立石 洋	講義
10	2	婦人科・産科疾患概論 1. 解剖生理 2. 症候と病態 3. 補助診断法 4. 主な疾患	立石 洋	講義
11	2	眼疾患概論 1. 解剖生理 2. 症候と病態 3. 補助診断法 4. 主な疾患	立石 洋	講義
12	2	耳鼻咽喉科疾患概論 1. 解剖生理 2. 症候と病態 3. 補助診断法 4. 主な疾患	立石 洋	講義
13	2	老年医学(高齢者ケアの基本原則)	立石 洋	講義
14	2	老年医学(高齢者によく見られる疾患・高齢者において異常な症候を示す疾患)	立石 洋	講義
15	2	老年医学(高齢者における薬物療法)	立石 洋	講義
16	2	薬理学全般。特によく使われる用語について解説する。	上野 多吉子	講義
17	2	薬物動態(1)薬物の適用方法、特に経口適用と注射による違いを解説する。	上野 多吉子	講義
18	2	薬物動態(2)適用された薬の体内での動態(吸収、体内分布、代謝、排泄)について解説する。	上野 多吉子	講義
19	2	神経系の働きと薬の作用を解説する。	上野 多吉子	講義
20	2	痛みを抑えるために使われる様々な薬について考察する。	上野 多吉子	講義
21	2	・オリエンテーション:リハビリテーション栄養を学ぶ目的を知る。 ・栄養の基礎 その1	福島 洋子	講義
22	2	・栄養の基礎 その2	福島 洋子	講義
23	2	・主な病態の栄養療法の基礎	福島 洋子	講義
24	2	・主な疾患の栄養療法の基礎	福島 洋子	講義
25	2	・まとめ(第21回～25回)	福島 洋子	講義
26	2	オリエンテーション	救急指導員	講義
27	2	一次救命処置(心肺蘇生及びAEDの使い方)	救急指導員	演習
28	2	搬送法及び気道異物除去	救急指導員	演習
29	2	応急処置(止血・キズの手当・固定)の実技	救急指導員	演習
30	2	まとめ(第26回～30回)・復習・検定(筆記試験、正解率80%以上で認定証を交付)	救急指導員	講義

総括的評価

(立石)終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。
(上野・福島)最初の授業時に複数の授業内容に関連した課題を提示しておき、最後の授業が終了後各自が興味のある課題についてレポートを作成させ評価する。

教科書:

- 1.PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版 医歯薬出版株式会社
- 2.教材「救急法基礎講習」配布

参考書:

- 1.「疾患の成り立ちと回復の促進(1) 病理学」 医学書院
- 2.「老人のリハビリテーション 第8版」 医学書院
- 3.「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」 医歯薬出版 栢木 淳 若林秀隆
- 4.「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養学」 医歯薬出版 若林 秀雄 著
- 5.「リハビリテーション生化学・栄養学」 医歯薬出版 内山 靖 他 編著
- 6.「休み時間の薬理学」(2版)丸山 敬著 講談社

その他の資料:

状況に応じ、随時、必要と思われる資料等を紹介、もしくは提示する予定である。

担当教員から

リハビリテーション医療を担う上で「医療行為」を知ることは非常に重要です。
リハビリテーション医や主治医、執刀医へ情報収集するためには様々な知識が必要となります。1年次で難しい用語もたくさん出てきますが遠慮なくメール等で質問してください。共に学んでいきましょう！

1年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療,リハビリテーションについて学習する。総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖と病態について学び,各論として骨の感染症,代謝障害,循環障害,骨系統疾患,骨・軟部腫瘍,神経・筋疾患,さらに外傷学(骨折・脱臼,脊髄損傷,スポーツ外傷)や義肢・装具についても学習する。

(到達目標)

- 1.運動器疾患の基礎となる骨・関節,筋・神経の構造や病態について十分な知識を学習する。
- 2.整形外科的な診断法や治療法について総論的な知識を学習する。
- 3.運動器障害をもたらす代表的な疾患の総論や各論について学習する。
- 4.セラピストとして遭遇することの多い外傷学に関する知識の習得を目指す。
- 5.リハチームアプローチの一員として,他職種の人たちとも協力できるセラピストを目指す。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	整形外科の基礎科学(1)(骨の発生・構造,関節の構造および病態生理など)	寺師 拓斗	講義
2	2	整形外科の基礎科学(2)(骨格筋の構造や病態生理,神経系の基本構造など)	寺師 拓斗	講義
3	2	整形外科の診断総論(1)(運動器の基本的な評価法について)	寺師 拓斗	講義
4	2	整形外科の診断総論(2)(神経学的な評価法について)	寺師 拓斗	講義
5	2	整形外科の診断総論(3)(整形外科的検査について)	寺師 拓斗	講義
6	2	整形外科の治療総論(4)(保存療法について)	寺師 拓斗	講義
7	2	疾患各論(1)(股関節について)	寺師 拓斗	講義
8	2	疾患各論(2)(股関節について)	寺師 拓斗	講義
9	2	疾患各論(3)(膝関節について)	寺師 拓斗	講義
10	2	疾患各論(4)(膝関節について)	寺師 拓斗	講義
11	2	疾患各論(5)(肩関節について)	寺師 拓斗	講義
12	2	疾患各論(6)(肩関節について)	寺師 拓斗	講義
13	2	疾患各論(7)(脊柱について)	寺師 拓斗	講義
14	2	疾患各論(8)(脊柱について)	寺師 拓斗	講義
15	2	まとめ(1)	寺師 拓斗	講義

総合的評価

定期試験にて行う。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書: 標準整形外科学第14版(医学書院)

参考書:

その他の資料: 適宜プリントなど配布

担当教員から

授業をよく聴いて、授業後に簡単に復習することを怠らないこと。授業終了後講義室で、随時質問等に応じる。

2年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療,リハビリテーションについて学習する。総論として骨・関節,神経・筋肉の機能解剖と病態について学び,各論として骨の感染症,代謝障害,循環障害,骨系統疾患,骨・軟部腫瘍,神経・筋疾患,さらに外傷学(骨折・脱臼,脊髄損傷,スポーツ外傷)や義肢・装具についても学習する。

(到達目標)

- 1.運動器疾患の基礎となる骨・関節,筋・神経の構造や病態について十分な知識を学習する。
- 2.整形外科的な診断法や治療法について総論的な知識を学習する。
- 3.運動器障害をもたらす代表的な疾患の総論や各論について学習する。
- 4.セラピストとして遭遇することの多い外傷学に関する知識の習得を目指す。
- 5.リハチームアプローチの一員として,他職種の人たちとも協力できるセラピストを目指す。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	疾患各論(脊柱の機能解剖)	藤村 勇人	講義
2	2	疾患各論(頸椎変性疾患)	藤村 勇人	講義
3	2	疾患各論(頸椎変性疾患)	藤村 勇人	講義
4	2	疾患各論(胸郭の変形、その他の胸郭疾患)	藤村 勇人	講義
5	2	疾患各論(胸椎の疾患)	藤村 勇人	講義
6	2	疾患各論(腰椎の疾患)	藤村 勇人	講義
7	2	疾患総論(関節リウマチ)	藤村 勇人	講義
8	2	疾患総論(関節リウマチ)	藤村 勇人	講義
9	2	疾患各論(股関節の疾患)	藤村 勇人	講義
10	2	疾患各論(股関節の疾患)	藤村 勇人	講義
11	2	疾患各論(膝関節の疾患)	藤村 勇人	講義
12	2	疾患各論(膝関節の疾患)	藤村 勇人	講義
13	2	疾患各論(足関節の疾患)	藤村 勇人	講義
14	2	疾患各論(足関節の疾患)	藤村 勇人	講義
15	2	まとめ	藤村 勇人	講義

総括的評価

定期(筆記)試験にて行う。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:「標準整形外科学 第14版」(医学書院)

参考書:

その他の資料:適宜プリントなど配布

担当教員から

整形外科疾患の概要について学びます。治療プログラムの考案やリスク管理にも必要となる知識なので日々の復習を確実にこなす

2年次 前期(2単位: 40時間)

(授業概要)

広い意味の内部障害(心臓機能障害、呼吸機能障害、腎臓機能障害、代謝障害、膀胱・直腸障害、小腸機能障害、癌のリハビリテーション)といわれる疾患それぞれに起因する運動・機能障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識をもとに、その理学療法(リスク管理、評価・運動療法・物理療法・ADL指導・生活環境支援)の理論と技術を習得し、臨床応用できる基礎を系統的に学習する。基本的に、呼吸理学療法技術の習得に重点をおく。

(到達目標)

- 内部障害に対するリハビリテーションを理学療法の観点から理解し、呼吸理学療法技術を中心に学習する。
1. 内部障害の定義と種類や特徴について、理学療法の観点から説明する。
 2. 内部障害患者(呼吸器疾患)に対する理学療法施行に際し必要な医学的知識を関連づける。
 3. 運動と代謝・呼吸・循環についてメカニズムを関連づける。
 4. 肺の解剖と呼吸生理および検査データについて理学療法に活用する。
 5. 内部障害各疾患に対応した運動負荷試験をあげる。
 6. 呼吸機能不全を呈する疾患と病態について理学療法と関連づける。
 7. 呼吸機能不全に対するチームアプローチの重要性を示す。
 8. 呼吸機能不全に対する日常生活指導ができる。
 9. 呼吸機能不全に対する理学療法について、手技とその手順を示す。
 10. 心機能と血液循環について理学療法に関連づける。
 11. 循環器疾患の検査・評価・病態について理学療法と関連づける。
 12. 循環器疾患に対する理学療法について、手技とその手順を示す。
 13. 循環器疾患に対するチームアプローチの重要性を示す。
 14. 循環器疾患に対する日常生活指導ができる。
 15. 代謝障害(糖尿病、高血圧症、痛風、肥満)等について理学療法と関連づける。
 16. 代謝障害(糖尿病、高血圧症、痛風、肥満)等の理学療法について、手技とその手順を示す。
 17. 腎臓機能障害の理学療法について示す。
 18. 肝臓機能障害、腸・膀胱機能障害の理学療法について示す。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	症候1:腰痛、呼吸困難・異常、喀血・吐血、動悸・心悸亢進	富宿 明子	講義
2	2	症候2:チアノーゼ、ショック、浮腫、発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐	富宿 明子	講義
3	2	症候3:腹痛、易感染性、意識障害、めまい、頭痛、けいれん	富宿 明子	講義
4	2	呼吸器疾患1:解剖生理学、運動学、閉塞性換気障害、拘束性換気障害	富宿 明子	講義
5	2	呼吸器疾患2:感染性肺疾患、在宅酸素療法、呼吸リハビリテーション	富宿 明子	講義
6	2	循環器疾患1:解剖生理学、虚血性心疾患、心不全、心弁膜疾患、先天性心疾患	富宿 明子	講義
7	2	循環器疾患2:不整脈、心筋疾患、心膜炎、動脈疾患・末梢血管疾患、高血圧	富宿 明子	講義
8	2	消化器疾患1:解剖生理学、症候、口腔・食道疾患、胃疾患	富宿 明子	講義
9	2	消化器疾患2:小腸疾患、大腸疾患、肝疾患、胆のう疾患、膵疾患	富宿 明子	講義
10	2	代謝性疾患1:生理学、糖代謝障害(糖尿病・低血糖)	富宿 明子	講義
11	2	代謝性疾患2:脂質代謝疾患(高脂血症)、痛風、骨粗鬆症	富宿 明子	講義
12	2	内分泌疾患1:解剖生理学、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患	富宿 明子	講義
13	2	内分泌疾患2:副甲状腺疾患、副腎皮質・副腎髄質疾患、性腺疾患	富宿 明子	講義
14	2	泌尿器疾患:解剖生理学、急性腎不全・慢性腎不全、前立腺疾患、その他	富宿 明子	講義
15	2	血液・造血性疾患1:解剖生理学、貧血・多血症	富宿 明子	講義
16	2	血液・造血性疾患2:白血病、悪性リンパ腫、出血性疾患	富宿 明子	講義
17	2	免疫関連疾患:生理学、膠原病、膠原病類縁疾患、自己免疫疾患、免疫不全症候群	富宿 明子	講義
18	2	感染性疾患:感染症	富宿 明子	講義
19	2	老年期疾患:加齢に伴う生理的变化、老年症候群	富宿 明子	講義
20	2	まとめ	富宿 明子	講義

総括的評価

定期(筆記)試験にて合格者には単位を認定する。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照してください。

教科書: 標準理学療法学・作業療法学「内科学」第3版(医学書院電子テキスト)

参考書: わかりやすい内科学(文光堂)
PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート(医歯薬出版)

その他の資料:

担当教員から

内科疾患の症候はリハビリテーション領域で多く遭遇します。前向きな態度を望みます。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

理学療法学科 2年次 前期 (1単位:20時間)

(授業概要)

老年期にみられる心身の変化や障害の特性を理解するために、本講義では総論として、老化のメカニズム・加齢に伴う生活機能の変化・特徴的な臨床、症候(老年期症候群)について、高齢者を取り巻く地域の課題を含めて幅広く解説する。また、各論では、リハビリテーションの対象となる老年期の疾患や障害についての講義を通して、老年期障害に対する理学療法の意義と社会的役割について学習する。

(到達目標)

- ①高齢化社会の人口学的概況と介護保険制度の現状を理解する。
- ②加齢に伴う身体的・精神的・社会的な変化、特徴とその多様性を理解する。
- ③高齢者の尊厳、QOL、そして自立した生活を支援する理学療法の役割を理解する。
- ④加齢に伴い特徴的に現れる疾患、障害について、その疫学、症候、評価、治療等を説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	高齢者を取り巻く状況 老化の特徴、加齢に伴う変化、高齢期疾患の特徴 高齢者の尊厳とその接し方について	岩森 俊	講義
2	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて① 神経筋疾患とそのリハビリテーション 脳血管障害について 疫学、症候、リハビリテーションの流れ 等	岩森 俊	講義
3	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて② 神経筋疾患とそのリハビリテーション 脳血管障害について 機能訓練、日常生活動作訓練、リスク管理 等	岩森 俊	講義
4	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて③ 脳損傷と高次脳機能障害についてブロードマンの分野と対応させ解説	岩森 俊	講義
5	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて④ パーキンソン病について臨床所見、診断、評価 リハビリテーション、ADLについて	岩森 俊	講義
6	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑤ 心臓、呼吸器疾患のリハビリテーションについて、高齢者の心臓の生理、病理、疾患について、高齢者に多い慢性呼吸器疾患について(リハビリテーション、呼吸訓練法)	岩森 俊	講義
7	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑥ 腎臓、肝臓リハビリテーション 生活習慣病、尿路疾患のリハビリテーションについて	岩森 俊	講義
8	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑦ 認知症のリハビリテーションについて 主な認知症性疾患の病態と症状、認知症対策と生活管理について	岩森 俊	講義
9	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑧ 運動器疾患のリハビリテーションについて、高齢者の骨折、転倒予防について 骨粗鬆症、腰痛、変形性膝関節症の原因、症状、治療、リハビリテーションについて	岩森 俊	講義
10	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑨ 運動器疾患のリハビリテーションについて、肩関節周囲炎について ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル等高齢者に伴う症候群について	岩森 俊	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件などはカリキュラムガイダンスを参照

教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 老年学(医学書院)

参考書：

その他の資料：
適宜、資料を配布します。

担当教員から

講義の内容は適宜変更する可能性があります。
なおこの授業の内容は必要に応じて変更する事があります。

理学療法学科 2年次 後期 (1単位: 20時間)

(授業概要)

老年期にみられる心身の変化や障害の特性を理解するために、本講義では総論として、老化のメカニズム・加齢に伴う生活機能の変化・特徴的な臨床、症候(老年期症候群)について、高齢者を取り巻く地域の課題を含めて幅広く解説する。また、各論では、リハビリテーションの対象となる老年期の疾患や障害に関する講義を通して、老年期障害に対する理学療法の意義と社会的役割について学習する。

(到達目標)

- ①加齢に伴い特徴的に現れる疾患、障害について、その疫学、症候、評価、治療等を説明できる。
- ②老年期のリハビリテーションを実施するうえで、知っておくべき多様な問題点を理解できる。
- ③介護予防に関する知識、知見を理解するとともに、地域の社会資源の活用方法を把握する。
- ④高齢者の体力測定の方法を安全面に配慮しながら実施することが可能となる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑩ 脊髄損傷のリハビリテーションについて 高齢者の脊髄損傷の特徴、麻痺の評価、脊髄高位と到達レベル等について	岩森 俊	講義
2	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑪ 切断者のリハビリテーションについて 切断部位と義肢の名称・機能の把握、切断を生じる主な疾患の把握	岩森 俊	講義
3	2	主な高齢期疾患のリハビリテーションについて⑫ 関節リウマチのリハビリテーションについて 年齢分布、主な症状、診断基準、治療についての把握	岩森 俊	講義
4	2	知っておくべき多様な問題点について① 障害者の心理、障害者を取り囲む側の問題点についての把握 ノーマライゼーション、人間のもつ防衛機制についての理解	岩森 俊	講義
5	2	知っておくべき多様な問題点について② 廃用症候群、誤用症候群、過用症候群について リハビリテーションで問題になる廃用症候群についての理解	岩森 俊	講義
6	2	知っておくべき多様な問題点について③ 嚥下障害について(シーティング技術含めて) 病態生理、原因疾患、診断、検査、チームアプローチについての理解	岩森 俊	講義
7	2	介護予防についての新しい知見、意義の理解 介護保険制度に対する理解 市区町村での介護予防事業の実態について	岩森 俊	講義
8	2	ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルの高齢者に伴う症候群への理解 老年期学Ⅰ(第10回)で学習したものの応用、補足	岩森 俊	講義
9	2	高齢者の体力測定についての理解 リスク管理、各体力測定のエビデンスの確認	岩森 俊	講義
10	2	まとめ 今後の高齢者を取り巻く環境や方向性についてのまとめ	岩森 俊	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件などはカリキュラムガイダンスを参照

教科書: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(医学書院電子テキスト)

参考書:

その他の資料:
適宜、資料を配布します。

担当教員から

講義の内容は適宜変更する可能性があります。
なおこの授業の内容は必要に応じて変更する事があります。

2年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

小児科学は当初内科学の一分野として取り扱われたが、解剖学的な形態や生理学的機能は成人とほぼ同じでも、生体の発達および発育過程において発生する異常とか、獲得してゆく免疫機能にまつわる疾患を正しく理解し、早い時期に食い止めねばならない症状などを知っておかねばならない。さらに近年、出生前診断法が確立されるようになって新しい知見が要求されつつあり、これらを踏まえて現代の小児科学の地位と役割を理解させる。

(到達目標)

遺伝子解明によって、これまで難病・奇病とされていた原因不明の疾患が次々と明らかにされ、小児の奇形や先天性疾患の大半が遺伝子にまつわることがわかってきた、その実態を正しく把握し、出生後の治療ないしはリハビリによって社会的適応性を早期に見出せるような小児医学のありかた、近年の出生前診断および臓器移植にまつわる倫理観の養成にも言及したい。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	小児科学概論1	川島 清美	講義
2	2	新生児・未熟児疾患	川島 清美	講義
3	2	先天異常と遺伝病	川島 清美	講義
4	2	神経・筋・骨疾患	川島 清美	講義
5	2	循環器疾患	川島 清美	講義
6	2	呼吸器疾患	川島 清美	講義
7	2	感染疾患;	川島 清美	講義
8	2	消化器疾患	川島 清美	講義
9	2	内分泌・代謝疾患	川島 清美	講義
10	2	血液疾患	川島 清美	講義
11	2	免疫・アレルギー失陥・膠原病、	川島 清美	講義
12	2	腎、泌尿器、生殖器疾患	川島 清美	講義
13	2	小児腫瘍疾患	川島 清美	講義
14	2	心身症・重症心身障害児	川島 清美	講義
15	2	全体の復習	川島 清美	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学(医学書院電子テキスト)

参考書：最新育児・小児病学(改訂第6版・南江堂／黒田泰弘監修)

その他の資料：必要に応じてプリントを配布

担当教員から

小児疾患の症候はリハビリテーション領域で遭遇します。前向きな態度を望みます。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

2年次 前期（1単位：20時間）

（授業概要）

神経内科疾患に見られる主な神経症候について理解することを目的とする。また、主要な神経疾患である脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等のリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。

（到達目標）

神経機能については機能解剖学と神経生理学に基づいて理解をすること、リハビリテーションに必要な神経学を学び、学生は卒業後に療法士として神経疾患のリハビリテーションが行えるように神経疾患の病態、病理、症状、予後、治療、リハビリテーションに関する知識の習得を目標にする。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	意識障害、認知障害（Aizheimer型認知症、脳血管性認知症、Lewy小体方認知症、前頭側頭型認知症）	中森 健二	講義
2	2	運動（運動麻痺のメカニズムと臨床症状）	中森 健二	講義
3	2	運動の調節（錐体外路・小脳のメカニズムと臨床症状）	中森 健二	講義
4	2	感覚障害のメカニズムと臨床症状（Brown-Séguard症候群、脊髄空洞症）	中森 健二	講義
5	2	自律神経障害、脳神経障害	中森 健二	講義
6	2	脳神経障害	中森 健二	講義
7	2	高次脳機能障害	中森 健二	講義
8	2	脳血管障害（脳出血、脳梗塞、頭部外傷）	中森 健二	講義
9	2	脳血管障害②（脳出血、脳梗塞、頭部外傷）	中森 健二	講義
10	2	脳血管障害③（脳出血、脳梗塞、頭部外傷）	中森 健二	講義

総括的評価

単元ごとの確認テスト、定期試験（筆記試験）を実施し合格者には単位を認定する。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照する。

教科書：教科書：標準理学療法学 神経理学療法学 第2版 吉尾 雅春、森岡 周、阿部 浩明 編集 医学書院
標準理学療法学 運動療法学 各論 第4版 吉尾 雅春、横田 一彦 編集

参考書：イラストでわかる PT・OT・STのための神経内科学 メディカ出版

その他の資料：授業に則したプリントを配布

担当教員から

リハの対象となる疾患がたくさん関係します。頑張って下さい。

理学療法学科 2年次 後期（1単位:20時間）

（授業概要）

神経内科疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、神経症候学の概要、及び主要な神経疾患である脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等のリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。

（到達目標）

神経機能については機能解剖学と神経生理学に基いて理解をすること、リハビリテーションに必要な神経学を学び、学生は卒業後に療法士として神経疾患のリハビリテーションが行えるように神経疾患の病態、病理、症状、予後、治療、リハビリテーションに関する知識の習得を目標にする。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	脳血管障害	中森 健二	講義
2	2	変性疾患1	中森 健二	講義
3	2	変性疾患2	中森 健二	講義
4	2	脱髄疾患1	中森 健二	講義
5	2	脱髄疾患2	中森 健二	講義
6	2	末梢神経障害1	中森 健二	講義
7	2	末梢神経障害2	中森 健二	講義
8	2	筋疾患	中森 健二	講義
9	2	神経筋接合部疾患	中森 健二	講義
10	2	まとめ	中森 健二	講義

総括的評価

小テスト(10%)、定期試験(80%)の成績、ならびに講義への出席状況(10%)で判断する。

教科書：教科書 標準理学療法学 神経内科学 第3版 医学書院

参考書：
イラストでわかる PT・OT・STのための神経内科学 メディカ出版

その他の資料：
授業に則したプリントを配布

担当教員から

リハの対象となる疾患がたくさん関係します 頑張ってください

1年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

統合失調症・神経症性障害・てんかん・気分障害・アルコール依存症・認知症について学ぶ。

(教育目標)

精神医学の対象である精神障害について学ぶことで、精神科領域の疾患について整理する。

zew

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	統合失調症1/統合失調症の全体像、予後	俵積田 大志	講義
2	2	統合失調症2/統合失調症症状発現期、思考内容の異常	俵積田 大志	講義
3	2	統合失調症3/統合失調症の思考過程の異常、幻覚、自我障害	俵積田 大志	講義
4	2	統合失調症4/統合失調症の感情障害、意欲・行動障害、陽性症状と陰性症状	俵積田 大志	講義
5	2	統合失調症5/統合失調症の学習障害、障害特性(昼田)、認知行動療法、病型	俵積田 大志	講義
6	2	神経症性障害／不安神経症(特徴・①全般性不安障害②パニック障害③恐怖症性不安障害)	俵積田 大志	講義
7	2	神経症性障害／不安神経症(④社交不安障害⑤特定の恐怖症⑥強迫神経症)	俵積田 大志	講義
8	2	神経症性障害／ストレス関連障害(①急性ストレス反応②PTSD)	俵積田 大志	講義
9	2	神経症性障害／ストレス関連障害(③適応障害④)／解離を中心とする神経症性障害、導入	俵積田 大志	講義
10	2	リエゾン精神医学(身体疾患と精神疾患の関連性)	俵積田 大志	講義

総括的評価

上記の内容を踏まえた定期(筆記)試験による評価。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:「標準理学療法学・作業療法学 精神医学第4版」医学書院電子テキスト

参考書:

その他の資料:

担当教員から

各々の障害の特徴を掴み、その原因や病態、予後、予防などを知っていくと面白い科目だと思う。覚えることも多いが、現場では患者さんの数は増え、理学療法士も接する機会が増えつつある。まず、この基礎を根底に勉強していけば、なぜこの治療が必要なのがおのずと理解できると思う。

1年次 前期(1単位:20時間)

(授業概要)

リハビリテーション医学・医療・介護について総括的に述べる。リハビリテーションの概念、リハビリテーション医学・医療の歴史、リハビリテーション医療の流れ、病院・施設・地域におけるリハビリテーションの医療の課題と展望、リハビリテーションにおけるチームアプローチ、今日の問題などの教授を通じて専門職としてのあり方、役割を自ら考える素地を形成する。

(到達目標)

障害者や高齢者が社会の中で、その人らしく生活していく上で重要なリハビリテーション医学・医療の思想を理解し、医療専門職としての役割を実践するのに必要な知識と技術を身につけ、自ら考える基本を学習する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	リハビリテーションとは(語源・WHO定義、理念、歴史、ノーマライゼーションの考え方など)	中森 健二	講義
2	2	医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方、医学的リハビリと職業・社会的リハビリの接点	中森 健二	講義
3	2	リハビリテーション・マインド(障害を診る心、社会復帰・社会参加を目指す・チームを大事になど)	中森 健二	講義
4	2	急性期・回復期・生活維持期のリハビリテーションについて	中森 健二	講義
5	2	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士とその役割	中森 健二	講義
6	2	リハビリテーション関連職種(義肢装具士、社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士など)	中森 健二	講義
7	2	多職種連携について(なぜ多職種連携が必要なのか)	中森 健二	講義
8	2	介護予防(介護保険の概要・介護予防の施策など)	中森 健二	講義
9	2	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム	中森 健二	講義
10	2	リハビリテーション概論まとめ	中森 健二	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。

教科書:リハビリテーション総論

参考書:現代リハビリテーション医学、リハビリテーションビジュアルブック

その他の資料:必要に応じて資料配布

担当教員から

リハビリテーション医学・歴史・定義・概念を理解し、高齢者や障害者のある人がノーマライゼーションの思想の下で、生き生きと生活していくことを支援する専門職として、考える力を養う。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

1年次 後期(1単位:20時間)

(授業概要)

統合失調症・神経症性障害・てんかん・気分障害・アルコール依存症・認知症について学ぶ。

(教育目標)

精神医学の対象である精神障害について学ぶことで、精神科領域の疾患について整理する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	統合失調症3/統合失調症の思考過程の異常、幻覚、自我障害	俵積田 大志	講義
2	2	統合失調症4/統合失調症の感情障害、意欲・行動障害、陽性症状と陰性症状	俵積田 大志	講義
3	2	統合失調症5/統合失調症の学習障害、障害特性(昼田)、認知行動療法、病型	俵積田 大志	講義
4	2	気分障害1/発病状況論、うつ病の症状	俵積田 大志	講義
5	2	気分障害2/躁病の症状	俵積田 大志	講義
6	2	アルコール依存症1/依存の3要素、要因、離脱症状	俵積田 大志	講義
7	2	アルコール依存症2/アルコール依存の精神症状、アルコール精神病、自助グループ(AAと断酒会)	俵積田 大志	講義
8	2	てんかん1/概念、成因、全般発作(欠神/ミオクローニー/強直間代発作/ウエスト症候群/レンノックスガストー症候群)	俵積田 大志	講義
9	2	てんかん2/部分発作(ジャクソン発作/複雑部分発作など)	俵積田 大志	講義
10	2	認知症/認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症	俵積田 大志	講義

総括的評価

上記の内容を踏まえた筆記試験による評価、定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学第4版」(医学書院電子テキスト)

参考書: 学生のための精神医学
現代臨床精神医学

その他の資料:

担当教員から

各々の障害の特徴を掴み、その原因や病態、予後、予防などを知っていくと面白い科目だと思う。覚えることも多いが、現場では患者さんの数は増え、理学療法士も接する機会が増えつつある。まず、この基礎を根底に勉強していけば、なぜこの治療が必要なのかがおのずと理解できると思う。

1年次 後期(1単位:20時間)

(授業概要)

社会資源や社会保障、地域包括ケアシステム、リハビリテーション関連職、他職種連携について総括的に述べる。また、多職種連携において各々の状況における連携を想定し、専門職としてのあり方、役割を自ら考える素地を形成する。

(到達目標)

障害者や高齢者が社会の中で、その人らしく生活していく上で必要な制度、地域包括ケアシステム、他職種連携における役割を理解し、専門職として実践することに必要な知識と技術を身につけ、自ら考える基本を学習する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	機能障害、能力低下と評価表	中森 健二	講義
2	2	機能障害、能力低下と評価表②	中森 健二	講義
3	2	疾患と障害の関係(国際障害分類・国際生活機能分類、障害受容など)	中森 健二	講義
4	2	疾患と障害の関係(国際障害分類・国際生活機能分類、障害受容など)②	中森 健二	講義
5	2	廃用症候群について	中森 健二	講義
6	2	廃用症候群について②	中森 健二	講義
7	2	社会資源(福祉用具・補装具・治療用装具・義肢・日常生活用具・その他用具など)	中森 健二	講義
8	2	社会保障(医療・福祉・介護保険・年金・労働保険など)	中森 健二	講義
9	2	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム	中森 健二	講義・グループワーク
10	2	リハビリテーション概論まとめ	中森 健二	講義・グループワーク

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:リハビリテーション総論改訂第3版 椿原 彰夫編著 (診断と治療社)

参考書:現代リハビリテーション医学、リハビリテーションビジュアルブック

その他の資料:必要に応じて資料配布

担当教員から

リハビリテーションに必要な制度やシステム、他職種連携の方法を知り、高齢者や障害者のある人がノーマライゼーションの思想の下で、生き生きと生活していくことを支援する専門職として考える力を養う。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

1年次：後期(2単位：40時間)

(授業概要)

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することである。リハビリテーション領域で対象となる主な疾患の病態を理解し、そのリハビリテーションがどのように進められるのか、要点を絞って解説する。

(教育目標)

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーション対象疾患について理解を深め、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことで今後の専門分野での学習の基礎を作る。
「その人らしい状態での復帰」を目指して、連携の必要性および一貫したチーム医療を展開するリハ医学の重要性を理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	疾患別リハビリテーション(脳卒中)	藤村 勇人	講義
2	2	疾患別リハビリテーション(脳卒中)	藤村 勇人	講義
3	2	疾患別リハビリテーション(パーキンソン病)	藤村 勇人	講義
4	2	疾患別リハビリテーション(パーキンソン病)	藤村 勇人	講義
5	2	疾患別リハビリテーション(脊髄小脳変性症)	藤村 勇人	講義
6	2	疾患別リハビリテーション(多発性硬化症)	藤村 勇人	講義
7	2	疾患別リハビリテーション(神経筋疾患)	藤村 勇人	講義
8	2	疾患別リハビリテーション(脊髄損傷)	藤村 勇人	講義
9	2	疾患別リハビリテーション(脊髄損傷)	藤村 勇人	講義
10	2	疾患別リハビリテーション(切断)	藤村 勇人	講義
11	2	疾患別リハビリテーション(運動器疾患・RA)	藤村 勇人	講義
12	2	疾患別リハビリテーション(外傷性脳損傷)	藤村 勇人	講義
13	2	疾患別リハビリテーション(脳性麻痺)	藤村 勇人	講義
14	2	疾患別リハビリテーション(循環器・呼吸器・がんなど)	藤村 勇人	講義
15	2	疾患別リハビリテーション(循環器・呼吸器・がんなど)	藤村 勇人	講義
16	2	チーム医療と関連職の理解	田川 知恵子	講義
17	2	チーム医療と関連職の連携	田川 知恵子	演習
18	2	情報収集能力・整理力の理解	田川 知恵子	講義
19	2	情報収集能力・整理力の演習	田川 知恵子	演習
20	2	講義まとめ(16回～20回)	田川 知恵子	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 椿原彰夫 診断と治療社

参考書：

その他の資料：
教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

他の授業と内容的に重複する部分が多いですが、知識の確認・整理ができるように、他の授業の教科書やファイルなども確認してください。

1年次 前期(2単位：30時間)

(授業概要)

理学療法の概念、歴史、理論、関連法規、具体的手段、理学療法士教育、理学療法士の現状と課題について学ぶ。

(到達目標)

理学療法士としての資質を養い、将来の医療・保険・福祉・教育現場での役割を自覚する。
理学療法士の現状と課題について理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	理学療法の概念と歴史	寺師 拓斗	講義
2	2	理学療法士の法律	寺師 拓斗	講義
3	2	理学療法士の関連法規	寺師 拓斗	講義
4	2	理学療法の意義と役割	寺師 拓斗	講義
5	2	理学療法の対象	寺師 拓斗	講義
6	2	理学療法の方法	寺師 拓斗	講義
7	2	理学療法の組織	寺師 拓斗	講義
8	2	理学療法士教育	寺師 拓斗	講義
9	2	医療・保険分野の理学療法	寺師 拓斗	講義
10	2	地域リハビリテーションと理学療法	寺師 拓斗	講義
11	2	医療事故とリスクマネジメント	寺師 拓斗	講義
12	2	個人情報の管理と対象者の権利	寺師 拓斗	講義
13	2	理学療法士を目指す学生に求められるもの	寺師 拓斗	講義
14	2	臨床教育の実践	寺師 拓斗	講義
15	2	理学療法士と研究	寺師 拓斗	講義

総括的評価

定期試験にて総合的に判定する。
終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：標準理学療法学 理学療法概説(第1版)：医学書院

参考書：理学療法テキストⅠ 理学療法概論(改訂第4版)：神陵文庫、

その他の資料：スライドに合わせた資料を適宜配布します。

担当教員から

理学療法の基礎となる概論や理学療法士を取り巻く状況を学び、理学療法士としての資質を身につけるための基礎固めに生かしてください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士としての医療機関や介護保険分野での臨床経験を持つ担当教員がその経験を活かし、臨床での経験を交えながら教授する。

1年次 後期(2単位:30時間)

(授業概要)

各障害や疾患の発生と予後に関する基礎知識を学び、障害や疾患に対し、理学療法がどのように対応できるかを考える。
各障害や疾患における運動療法の方法を検討し、理学療法への適用を考える。

(到達目標)

各障害や疾患、運動療法学の基礎的な学習を中心に、理学療法士という専門職のあり方、役割を自ら考える素地を形成する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	関節の構造、関節可動域の測定	立石 洋	講義
2	2	関節拘縮と関節可動域訓練	立石 洋	講義
3	2	筋力の定義、筋力の生理機構	立石 洋	講義
4	2	筋力低下と筋力増強訓練	立石 洋	講義
5	2	運動麻痺とニューロリハビリテーション	立石 洋	講義
6	2	運動学習の理論	立石 洋	講義
7	2	異常歩行と歩行訓練	立石 洋	講義
8	2	失語症と言語聴覚療法	立石 洋	講義
9	2	失認と失行	立石 洋	講義
10	2	高次脳機能障害	立石 洋	講義
11	2	摂食嚥下障害	立石 洋	講義
12	2	排泄障害	立石 洋	講義
13	2	痙縮のコントロール	立石 洋	講義
14	2	加齢と疾患	立石 洋	講義
15	2	加齢と介護予防	立石 洋	講義

総括的評価

定期試験にて60点以上の者を合格とする。
終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション概論 改定第3版 編著 椿原 彰夫

参考書:

その他の資料:教科書の補足として、適宜、資料配布することがあります。

担当教員から

各障害や疾患、運動療法の基礎知識の習得を目標としており、理解を深めるために関連する専門基礎の復習も行いながら講義に臨んでください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士としての医療機関や介護保険分野での臨床経験を持つ担当教員がその経験を活かし、疾患や障害に関連する運動療法の大枠について教授する。

2年次 前期(1単位: 20時間)

(授業概要)

1年時の運動学で四肢・体幹・顔面の筋骨格系の構造や機能、関節運動を基に、正常な姿勢や動作を理解し、1年時の物理学で学んだ基礎バイオメカニクスを運動力学として応用することに重点を置きます。正常な姿勢・歩行を学習したのち、代表的な疾患の異常姿勢・歩行について臨床運動学Ⅱへつながるよう学習します。

(到達目標)

正常および高齢者、また理学療法を行う上で対象となる代表的な疾患の立位姿勢および歩行を運動学・運動力学的に分析することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	臨床(病態)運動学とは	吉野 慶子	講義
2	2	姿勢、アライメントについて 姿勢の分類	吉野 慶子	講義
3	2	立位姿勢の安定性	吉野 慶子	講義
4	2	立位バランス安定性のテスト 代表的な疾患による異常姿勢	吉野 慶子	講義
5	2	歩行周期、歩行時の運動学的分析	吉野 慶子	講義
6	2	小児の歩行 老人の歩行	吉野 慶子	講義
7	2	異常歩行の観察 代表的な疾患による異常姿勢	吉野 慶子	講義
8	2	症例を用いた姿勢・動作分析	吉野 慶子	演習
9	2	3次元動作解析装置を用いた歩行分析	吉野 慶子	講義
10	2		吉野 慶子	演習

総括的評価

講義時に提示する課題提出(20%)、出席状況および授業態度(10%)、定期試験(70%)にて評価を行う。

教科書:

- ①標準理学療法学 病態運動学、星文彦・新小田幸一・臼田茂 編、医学書院
- ②基礎運動学第6版補訂、中村隆一・齊藤宏・長崎浩著、医歯薬出版株式会社
- ③基礎バイオメカニクス第2版、山本澄子・石井慎一郎・江原義弘著、医歯薬出版株式会社

参考書:

その他の資料:必要に応じて提示します。

担当教員から

1年次に履修した運動学や物理学をもとに、臨床で対応することが多い疾患の、立位姿勢・歩行について学習していきます。事前の予習をお願いしたいと思います。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床現場において患者の姿勢、歩行など、動作の見かた・考え方、を理学療法士としての臨床経験を活かし教授します。□

2年次 後期(1単位： 20時間)

(授業概要)

臨床運動学Ⅰにおける基礎を理解し、高齢者に特有の各疾患の動作分析とその記述ができるようになることが本講義の大きな目的である。主な疾患の障害像を理解する必要があるため、様々な教科書を読みこみ、各疾患特有の姿勢・動作を理解できるよう講義を進めます。

(到達目標)

各疾患の障害像を理解し、姿勢および動作を運動学・運動力学的に分析することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	高齢者の姿勢・動作の特徴と分析	吉野 慶子	講義
2	2	脳卒中片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析 (半側無視を有する脳卒中片麻痺を含む)	吉野 慶子	講義
3	2		吉野 慶子	講義
4	2	脊髄損傷の姿勢・動作の特徴と分析	吉野 慶子	講義
5	2	パーキンソニズムの姿勢・動作の特徴と分析	吉野 慶子	講義
6	2	運動失調の姿勢・動作の特徴と分析	吉野 慶子	講義
7	2	脳性麻痺の姿勢・動作の特徴と分析	吉野 慶子	講義
8	2	運動器疾患の姿勢・動作の特徴と分析 (術前・術後を含む)	吉野 慶子	講義
9	2		吉野 慶子	講義
10	2	下肢切断(義足)の姿勢・動作の特徴と分析	吉野 慶子	講義

総括的評価

講義時に提示する課題提出(20%)、出席状況および授業態度(10%)、定期試験(70%)にて評価を行う。

教科書:

標準理学療法学 病態運動学、星文彦編、医学書院
 標準理学療法学 理学療法臨床実習とケーススタディ、鶴見隆正編、医学書院
 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学第6版、鶴見隆正編、医学書院
 ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭著、南山堂
 義肢装具学、佐伯覚編、医学書院

参考書:15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト臨床運動学、石川朗・種村留美総編集、中山書店

その他の資料:その他適宜必要に応じて資料を印刷します。

担当教員から

1年次に履修した運動学や物理学、2年次前期の臨床運動学Ⅰをもとに、代表的な疾患の姿勢・動作を学びます。疾患についての学習も同時に進めるようお願いいたします。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床現場において様々な疾患の姿勢、歩行など、動作の見かた・考え方を総合病院で勤務してきた理学療法士としての臨床経験を活かし教授します。

2年次 後期(2単位: 30時間)

(授業概要)

理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。

(教育目標)

- 1.社会保障制度について説明できる。
- 2.職場倫理を高める態度について説明できる。
- 3.業務管理に必要な能力について説明できる。
- 4.多職種連携と地域連携について療法士の役割を説明できる。
- 5.理学療法教育に必要な能力について説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	社会保障制度について①(医療保険)	田川 知恵子	講義
2	2	社会保障制度について②(介護保険)	田川 知恵子	講義
3	2	社会保障制度について③(障害者・障害児サービスと就労支援/予防・保健)	田川 知恵子	講義
4	2	職業倫理について	田川 知恵子	講義
5	2	業務管理について①(組織と業務)	田川 知恵子	講義
6	2	業務管理について②(コンプライアンス・労務管理・組織マネジメント)	田川 知恵子	講義
7	2	多職種連携について①	田川 知恵子	講義
8	2	多職種連携について②(療法士が連携すべき他職種の紹介)	田川 知恵子	講義
9	2	地域連携について①	田川 知恵子	講義
10	2	地域連携について②(連携を行った事例)	田川 知恵子	講義
11	2	医療の質的保障について	田川 知恵子	講義
12	2	リスクマネジメントについて	田川 知恵子	講義
13	2	養成教育について	田川 知恵子	講義
14	2	卒後教育について	田川 知恵子	講義
15	2	まとめ	田川 知恵子	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:「リハビリテーション管理学」 斎藤 英之・能登 真一編集 (医学書院電子テキスト)

参考書:

その他の資料:教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、を配布することがあります。

担当教員から

将来的に理学療法士として、それぞれの臨床現場で活動する際に、活かされる概念と方法論を広義に理解・認識できるよう取り組んでください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法の職場管理の専門家(協会指定管理者(初級)を取得済)の立場から、事例等を紹介し実践的な講義を展開します。

1年次 前期 (2単位:40時間)

(授業概要)

理学療法にとって評価とは、リハビリテーションは評価に始まり、評価に終わるといわれる重要な項目です。総論として理学療法の対象となる障害の範囲と性質および各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性と検討する。各論として理学療法評価の目的・意義、評価の基本的な方法、および理学療法診療録の書き方を修得する。

(到達目標)

理学療法における障害の捉え方と理学療法評価の原理を知り、理学療法評価の意義・目的を理解することができる。理学療法で用いる基本的な検査・測定法を理解し、リスク管理などを含めた安全性に配慮しながら学生同士で実施できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	オリエンテーション、理学療法評価とは	藤村 勇人	講義
2	2	コミュニケーション技法	藤村 勇人	講義
3	2	バイタルサイン(意識、血圧、脈拍、体温、呼吸の意義・目的・測定方法)	藤村 勇人	講義
4	2	バイタルサインの実際(意識、血圧、脈拍、体温、呼吸)	藤村 勇人	演習
5	2	姿勢(目的、アライメント評価)	藤村 勇人	講義
6	2	形態測定(概論、目的、長育、量育、周育、体格指数)	藤村 勇人	講義
7	2	形態測定の実際(四肢長・周径)	藤村 勇人	演習
8	2	関節可動域測定(概論、目的、測定方法、留意点)	藤村 勇人	講義
9	2	関節可動域測定の実際(上肢)	藤村 勇人	演習
10	2	関節可動域測定の実際(下肢)	藤村 勇人	演習
11	2	関節可動域測定の実際(頸部・体幹)	藤村 勇人	演習
12	2	感覚検査(概論、目的、検査方法、注意点)	藤村 勇人	講義
13	2	感覚検査の実際(表在感覚、深部感覚、複合感覚)	藤村 勇人	演習
14	2	痛みの検査について、痛みの検査の実際(概論、目的、手順)	藤村 勇人	演習
15	2	反射・反応検査、筋緊張検査(概論、目的、検査方法、注意点)	藤村 勇人	講義
16	2	反射・反応検査の実際(深部反射、表在反射、病的反射)、筋緊張検査の実際	藤村 勇人	演習
17	2	協調性検査(概論、目的)	藤村 勇人	講義
18	2	協調性検査の実際(四肢、体幹)	藤村 勇人	演習
19	2	バランス検査(概論、姿勢戦略、評価方法)	藤村 勇人	講義
20	2	バランス検査の実際	藤村 勇人	演習

総括的評価

定期試験(筆記試験)を実施し合格者には単位を認定する。
終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書： 「標準理学療法学:理学療法評価学 第4版」 監修:奈良 勲 編集:岩井 信彦、内山 靖
PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)第2版:才藤 栄一(金原出版)

参考書:運動療法学 第2版 市橋則明 文光堂
運動療法学 改訂第2版 柳澤健 金原出版

その他の資料:必要に応じて配布します

担当教員から

理学療法評価では評価の一連の流れと基本的な手順を学習していきます。また技術を身につけるには、空き時間などに練習を積むことも必要です。まずは、学生同士でリスク管理などの安全性に配慮し信頼性のある評価が行えるように技術レベルの向上を図っていきましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として医療保健分野や介護保険分野での臨床経験を持つ担当教員がその経験を活かし、演習など多く取り入れながら評価の意義・目的、評価方法について教授する。

1年次 後期(2単位：60時間)

(授業概要)

各評価の意義や目的、実施方法などを理解し、行うことができる。
 総論として理学療法の対象となる障害の範囲と性質および各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性と検討する。各論として理学療法評価の中でも疾患に拘わらず比較的共通に行われる評価の基本的な手技、および理学療法診療録の書き方を修得する。

(到達目標)

理学療法における障害の捉え方と理学療法評価の原理を知り、理学療法評価の意義・目的を理解する。
 画像診断の基礎を学び得られた情報をリハビリテーションに活かすことができる。
 理学療法で用いる基本的な検査・測定法を理解し、リスク管理などを含めた安全性に配慮しながら学生同士で実施できる。
 理学療法評価の結果の記録をはじめとする理学療法診療録の書き方を修得する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	MMT(基礎、意義・目的)頸部・体幹MMT	寺師 拓斗	講義・演習
2	2	顔面・頸部・体幹MMT	寺師 拓斗	講義・演習
3	2	上肢MMT(肩甲帯)(肩関節)	寺師 拓斗	講義・演習
4	2	上肢MMT(肩甲帯)(肩関節)	寺師 拓斗	講義・演習
5	2	上肢MMT(肘関節、前腕)	寺師 拓斗	講義・演習
6	2	上肢MMT(肘関節、前腕)	寺師 拓斗	講義・演習
7	2	上肢MMT(手関節、手指)	寺師 拓斗	講義・演習
8	2	上肢MMT(手関節、手指)	寺師 拓斗	講義・演習
9	2	下肢MMT(股関節、膝関節)	寺師 拓斗	講義・演習
10	2	下肢MMT(股関節、膝関節)	寺師 拓斗	講義・演習
11	2	下肢MMT(足関節、足趾)	寺師 拓斗	講義・演習
12	2	下肢MMT(足関節、足趾)	寺師 拓斗	講義・演習
13	2	Brunnstrom stage	寺師 拓斗	講義・演習
14	2	Brunnstrom stage	寺師 拓斗	講義・演習
15	2	日常生活動作(ADL動作)	寺師 拓斗	講義・演習
16	2	日常生活動作(ADL動作)	寺師 拓斗	講義・演習
17	2	脳神経検査(基礎、意義・目的)	寺師 拓斗	講義・演習
18	2	脳神経検査(嗅神経、視神経、動眼神経)	寺師 拓斗	講義・演習
19	2	脳神経検査(滑車神経、三叉神経、外転神経)	寺師 拓斗	講義・演習
20	2	脳神経検査(顔面神経、聴神経、舌咽神経)	寺師 拓斗	講義・演習
21	2	脳神経検査(迷走神経、副神経、舌下神経)	寺師 拓斗	講義・演習
22	2	画像診断のきほん(単純X線、CT、MRI、MRA、エコー)	寺師 拓斗	講義
23	2	脳画像の基本のみかた(機能と構造、正常画像)	寺師 拓斗	講義
24	2	脳画像の基本のみかた(脳画像のみかた、疾患別読影のポイント)	寺師 拓斗	講義
25	2	脊椎・脊髄画像 基本のみかた(機能と構造、正常画像、脊椎・脊髄画像のみかた、疾患別読影のポイント)	寺師 拓斗	講義
26	2	骨・関節画像 基本のみかた(機能と構造、正常画像、骨・関節画像のみかた、疾患別読影のポイント)	寺師 拓斗	講義
27	2	胸部画像 基本のみかた(機能と構造、正常画像、胸部画像のみかた、疾患別読影のポイント)	寺師 拓斗	講義
28	2	腹部画像 基本のみかた(機能と構造、正常画像、腹部画像のみかた、疾患別読影のポイント)	寺師 拓斗	講義
29	2	まとめ	寺師 拓斗	講義・演習
30	2	まとめ	寺師 拓斗	講義・演習

総括的評価

実技試験(30%)、筆記試験(70%)、小テストにて総合的に判定する。
 試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：標準理学療法学 理学療法評価学 第3版 内山 靖 若井 信彦 編集(医学書院)
 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」田崎 義昭・斎藤佳雄 著 坂井 文彦 改訂(南山堂)
 「新・徒手筋力検査法 原著 第10版」(協同医書出版社)
 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価 宮越 浩一 編集
 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像 前田 眞治 著

参考書：特になし

その他の資料：教科書の補足として、適宜、資料配布することがあります。

担当教員から

理学療法評価における検査測定や画像の診かたを学ぶにあたり、基本的な解剖学、生理学、運動学の知識が必須の為、事前に確認を行い授業に臨むようにして下さい。
 理学療法評価では評価の一連の流れと基本的な手順を学習し、また技術を身につけ、まずは学生同士で安全性に配慮し信頼性のある評価が行えるように評価技術の向上に努めてください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士としての医療機関や介護保険分野での臨床経験を持つ担当教員がその経験を活かし、演習なども取り入れながら評価方法、評価の意義・目的について教授する。

2年次 前期(1単位：30時間)

(授業概要)

ADLを学習していくにあたって必要となるADLの概念や範囲、歴史的推移、国際障害者分類との関連性、そしてQOLについて学習し、理学療法におけるADLの位置づけについて理解を深める。ADL評価法は評価の目的・評価項目・評価の方法について教授する。具体的には、Barthel indexとFIMを中心に、各種評価法の目的や方法、評価尺度などの特異性を理解する。ADL練習としては食事・入浴・更衣・排泄・整容・起居動作の指導方法と介助方法について講義と実習を行う。また、ADLを支援する福祉機器の種類と活用法については教科書や各福祉用具メーカーカタログなどを参照し、実際に使用することで体験的に使用方法を習得して頂きたい。

(到達目標)

ADLの総論として概念を理解し、Barthel IndexやFIMなどを中心に各種評価を理解することで適切なADL評価を行えるようにする。また、評価の対象である基本動作6項目(食事・入浴・更衣・排泄・整容・起居動作)の各項目別に、動作の特徴について分析を行い、その動作を構成している要素を抽出し、指導方法や介助方法、自助具・歩行補助具等の適応、環境の整備について理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	ADLの定義・BADLの範囲と広義のADL(APDL,IADL,EADL)およびQOLとの関係について	原田 竜治	講義
2	2	ICIDHとICFの比較、ICFの構造について	原田 竜治	講義
3	2	代表的疾患・障害例のICFによる障害構造についてレポート作成	原田 竜治	講義
4	2	Barthel Index得点の定義・尺度、その他代表的なADL評価尺度の評価方法についてグループ活動	原田 竜治	演習
5	2	FIM①(食事・整容・入浴・更衣・トイレ動作・排泄コントロール)の評価方法について説明	原田 竜治	講義
		FIM②(移乗・移動動作・コミュニケーション・社会的認知)の評価方法について説明		
6	2	FIM①(食事・整容・入浴・更衣・トイレ動作・排泄コントロール)の評価	原田 竜治	演習
		FIM②(移乗・移動動作・コミュニケーション・社会的認知)の評価		
7	2	FIM③(食事動作)の評定についての説明	原田 竜治	講義
		FIM④(更衣・トイレ・移乗・移動動作)の評定についての説明		
8	2	FIM③(食事動作)の評定についてグループ活動	原田 竜治	演習
		FIM④(更衣・トイレ・移乗・移動動作)の評定について		
9	2	基本動作の介助方法と移動用具(車椅子の名称・チェックアウト)・グループ活動	原田 竜治	講義
10	2	移動用具(松葉杖・杖の調節の仕方)と杖歩行・グループ活動	原田 竜治	演習
11	2	福祉用具・自助具について・グループ活動	原田 竜治	講義
12	2	代表的な疾患に対する福祉用具・自助具の活用方法についてグループ活動①	原田 竜治	講義
13	2	代表的な疾患に対する福祉用具・自助具の活用方法についてグループ活動②	原田 竜治	演習
14	2	ADLと運動学(運動学的分析の基礎)(起居・移動動作の運動学的分析)	原田 竜治	講義
15	2	ADLと運動学(運動学的分析の基礎)(起居・移動動作の運動学的分析)	原田 竜治	演習

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定します。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第2版」奈良 勲 監修(医学書院電子テキスト)

参考書：「脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編]」千野 直一 他編(金原出版株式会社)
「理学療法ハンドブック(改訂第3版) 第1巻・第3巻」細田 多穂 他 編(共同医書出版社)

その他の資料：授業開始前までに別途指示します。

担当教員から

日常生活活動とは何でしょうか？多くの健常人は何気なく行っている活動でしょうが、一度何らかの障害によってこの活動の遂行が困難になると大変な思いをされると考えられます。人間の行動は「運動」「動作」「行為」に分類され、日常生活活動は「行為」にあたりますが、皆さんはこの先理学療法士としてヒトの「行為」を変えることが出来るのでしょうか？多くの学生は「動作」分析が非常に難解であると言います。更にその上位の「行為」を分析してプログラムを立てて患者へ利益をもたらすには相当な「覚悟と努力」が必要だと思えます。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として病院で患者の機能訓練、ADL訓練・指導に従事しており、臨床現場での実例を通して基礎知識をより実践的な治療法、指導法へと結びつけられるように教えたいと思えます。

2年次 後期(1単位: 30時間)

(授業概要)

疾患別に対するADLの考え方、障害特性に応じた評価と介入について理解し、学生同士での体験実習としての日常生活活動評価法・指導法を身につける。

(到達目標)

疾患別のADL評価、指導について説明でき、模倣できる。総合的に臨床実習要補助レベルを目標とする。
 ※「臨床実習要補助レベル」とは、学内実習で経験しており健康者に対しては適切に実施できるが、臨床場面ではリスクをとまなう可能性が高く指導者による十分な指導、補助が必要なレベル

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	片麻痺のADL評価、指導について説明と模倣①(以下の疾患についても同様)	原田 竜治	演習
2	2	片麻痺のADL評価、指導について説明と模倣②	原田 竜治	演習
3	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -関節リウマチについて-	原田 竜治	演習
4	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -パーキンソン病・小脳変性疾患について①-	原田 竜治	演習
5	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -パーキンソン病・小脳変性疾患②-	原田 竜治	演習
6	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -神経筋疾患・難病(ALS, 多発性硬化症)について-	原田 竜治	演習
7	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -変形性股関節症・人工関節術後について-	原田 竜治	演習
8	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -変形性膝関節症・変形性腰椎症について-	原田 竜治	演習
9	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -下肢切断について-	原田 竜治	演習
10	2	評価と評価結果に基づく活動性の向上・ADLへのアプローチの検討 -視覚障害について-	原田 竜治	演習
11	2	生活環境としての住宅改修についてグループ活動	原田 竜治	演習
12	2	各疾患における福祉・リハビリテーション関連用具についてグループ活動	原田 竜治	演習
13	2	脳性麻痺について	原田 竜治	演習
14	2	生活環境のフィールドワークについて机上演習	原田 竜治	演習
15	2	学外におけるフィールドワーク	原田 竜治	演習

総括的評価

レポート提出状況・小テスト結果・学期末試験結果にて総合的に判定する。

教科書:「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第2版」奈良 勲 監修(医学書院電子テキスト)

参考書:「理学療法ハンドブック(改訂第3版) 第1巻・第3巻」細田 多穂 他 編 (共同医書出版社)
 「日常生活活動(ADL)第2版」千住 秀明 監修 (神稜文庫)
 「日常生活活動学テキスト」細田 多穂 監修 (南江堂)

その他の資料: 授業開始前までに別途指示する

担当教員から

ADLは直接的に患者の利益に結び付くところであり、他職種間とのカンファレンスでの検討、調整がなされ、リハビリテーション目標を決定するうえで最も重要な核となる。そのため、ADLについての基本的な理解と実践ができるように、また、患者の立場で何が必要か、自らも考えながら実習に臨んでください。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床現場において担当症例の生活環境様式や状態に応じた日常生活活動練習を実践している。この科目では演習(実習)を中心として教科書を中心として基本事項を理解し、臨床実習現場で役立つよう実習指導場面のエピソードなども加え、実践演習を行う。

(授業概要)

理学療法の中でも重要な位置を占める運動療法について、基本的な理論を学ぶ。
理学療法における基本的な臨床的体系について、運動療法理論を一貫して習得する。

(到達目標)

理学療法の中核となる運動療法について学習する。具体的には
1. 運動療法の定義、目的、対象疾患、使用機器等を理解し、説明できる。
2. 運動療法を行う上でのリスク管理を理解し、説明できる。
3. 基本的な各運動療法として理論と技術の習得を目的とし、学生同士で実施できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	運動療法概論、全身調整訓練	吉野 慶子	講義
2	2	関節可動域運動① 関節の形態と機能、関節可動域について	吉野 慶子	講義
3	2	関節可動域運動② 関節可動域運動の実際	吉野 慶子	講義
4	2	ストレッチング ストレッチングの種類と実際	吉野 慶子	講義
5	2	筋力・筋持久力の改善① 運動単位と筋線維型、筋肥大・筋萎縮・筋疲労について	吉野 慶子	講義
6	2	筋力・筋持久力の改善② 筋力・筋持久力のプログラム	吉野 慶子	講義
7	2	痛みの改善	吉野 慶子	講義
8	2	運動学習	吉野 慶子	講義
9	2	まとめ	吉野 慶子	講義
10	2	協調性(協調性運動障害と運動失調の捉え方、分類)	藤村 勇人	講義
11	2	協調性(協調性運動障害を診る視点、協調性運動障害に対する運動療法の理論)	藤村 勇人	講義
12	2	バランス(バランスに関する理論、姿勢戦略、反射階層理論、システム理論、運動能力に基づく評価)	藤村 勇人	講義
13	2	基本動作(概論、操作指導の留意点やポイント、動作分析、寝返り、起き上がり)	藤村 勇人	講義
14	2	基本動作(座位、立ち上がり、立位、移乗動作)	藤村 勇人	講義
15	2	歩行(概論、床反力、歩行障害に対する運動療法の理論)	藤村 勇人	講義

総括的評価

終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 編集：市橋則明

参考書：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 編集：市橋則明
運動療法学 改訂版2版 金原出版株式会社 編集：柳澤健、
理学療法学 ゴールドマスター・テキスト 運動療法学 メジカルビュー社 編集：柳澤健
シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト 監修：細田多穂 編集：植松光俊、大川裕行、明日徹

その他の資料：必要に応じて配布します。

担当教員から

運動療法の実技につながるように理論や評価、運動療法について講義や実技を実施していきます。
理論をしっかり理解したうえで運動療法が行えるように努めてください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として医療機関や介護保険分野での臨床経験を持つ担当教員がその経験を活かし、演習なども取り入れながら教授していきます。

2年次 後期 (2単位: 30時間)

(授業概要)

中枢神経疾患の中でも、脳血管障害に焦点を当てて、脳血管障害および実施される理学療法の概要について教授する。脳卒中のリハビリテーションの流れ、脳血管障害後に見られる片麻痺患者の機能や障害の知識や状況に応じた適切な運動療法を学ぶ。

(到達目標)

- ①脳血管障害のリハビリテーションの流れを理解する。
- ②脳血管障害の患者のリスク管理を理解する。
- ③機能回復(脳の可塑性)について理解する。
- ④脳血管障害後に見られる代表的な神経症状のメカニズム、治療を理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	脳卒中リハビリテーションの流れ(急性期・回復期・生活維持期、予後予測)	中森 健二	講義
2	2	脳卒中リハビリテーションの流れ(医療スタッフ間の連携・地域連携パスなど)	中森 健二	講義
3	2	脳損傷患者へのリスク管理(合併症等も含む)	中森 健二	講義
4	2	脳損傷の病態と回復、運動学習理論とリハビリテーション ①	中森 健二	講義
5	2	脳損傷の病態と回復、運動学習理論とリハビリテーション ②	中森 健二	講義
6	2	脳卒中リハビリテーションの実際①(脳卒中治療ガイドライン、痙縮)	中森 健二	講義
7	2	脳卒中リハビリテーションの実際②(肩の問題: 肩手症候群)	中森 健二	講義
8	2	脳卒中リハビリテーションの実際③(摂食嚥下障害)	中森 健二	講義
9	2	脳卒中リハビリテーションの実際④(摂食嚥下障害)	中森 健二	講義
10	2	脳卒中リハビリテーションの実際⑤(半側空間無視・pusher症候群)	中森 健二	講義
11	2	脳卒中リハビリテーションの実際⑥(半側空間無視・pusher症候群)	中森 健二	講義
12	2	脳卒中リハビリテーションの実際⑦(顔面神経麻痺)	中森 健二	講義
13	2	脳卒中リハビリテーションの実際⑧(異常歩行: 反張膝・膝折れ)	中森 健二	講義
14	2	脳卒中リハビリテーションの実際⑨(CI療法・ボツリヌス療法・rTMS治療)	中森 健二	講義
15	2	脳卒中リハビリテーションの実際⑩(CI療法・ボツリヌス療法・rTMS治療)	中森 健二	講義

総合的評価

定期試験(筆記試験)を実施し合格者には単位を認定する。終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書: 教科書: 標準理学療法学 神経理学療法学 第2版 吉尾 雅春、森岡 周、阿部 浩明 編集 医学書院
標準理学療法学 運動療法学 各論 第4版 吉尾 雅春、横田 一彦 編集

参考書: 理学療法の理論と実践: メジカルビュー
ベッドサイドの神経の診かた: 南山堂

その他の資料:

担当教員から

運動療法の実技につながるよう理論や評価、運動療法について講義や実技を実施していきます。理論をしっかりと理解したうえで運動療法が行えるように努めてください。

実務経験のある教員による実践的授業

脳血管障害に対する理学療法の経験より、各障害の特徴や障害に対するアプローチ方法、またリスク管理等を座学に留まらない実践的な見地からの知識も教授する。

2年次: 前期(1 単位: 30 時間)

(授業概要)

理学療法の中でも重要な位置を占める運動療法について、基本的な技術を学ぶ。

(到達目標)

理学療法における基本的な臨床的体系について、運動療法技術を一貫して習得する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	全身調整のための手段	吉野 慶子	演習
2	2	関節可動域運動① 上肢の他動的関節可動域運動	吉野 慶子	演習
3	2	関節可動域運動② 体幹・下肢の他動的関節可動域運動	吉野 慶子	演習
4	2	ストレッチング	吉野 慶子	演習
5	2	筋力・筋力訓練① 徒手抵抗運動	吉野 慶子	演習
6	2	筋力・筋力訓練② OKCとCKC、セッティング	吉野 慶子	演習
7	2	筋持久力・持久力訓練	吉野 慶子	演習
8	2	痛みに対する運動療法	吉野 慶子	演習
9	2	まとめ	吉野 慶子	演習
10	2	協調性障害に対する評価・運動療法(運動失調症に対する評価・運動療法)	藤村 勇人	演習
11	2	バランス障害に対する評価・運動療法	藤村 勇人	演習
12	2	基本動作に対する評価・運動療法(寝返り、起き上がり、座位)	藤村 勇人	演習
13	2	基本動作に対する評価・運動療法(立ち上がり、立位)、移乗動作	藤村 勇人	演習
14	2	歩行障害に対する運動療法(運動療法の実践、杖の選択)	藤村 勇人	演習
15	2	まとめ①	藤村 勇人	演習

総括的評価

出席と参加状況、小テスト、レポートにより評価する。

教科書: 吉尾雅春・増田一彦 編、標準理学療法学 運動療法学総論 第4版、医学書院

参考書: 市橋則明 編、運動療法学 第2版、文光堂

その他の資料: その都度配布します

担当教員から

運動療法 I の講義と並行して実技を行います。講義の内容を理解したうえで実習に臨むよう努めてください。
なお、この授業は必要に応じて変更する場合があります。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として、臨床現場で運動療法を中心とした理学療法を行ってきた経験を活かし、実技を中心とした授業を行う。

1年次 後期(1単位：30時間)

(授業概要)

理学療法の中でも重要な位置を占める運動療法について、基本的な理論を学ぶ。
脳血管障害後の片麻痺における運動療法理論について、さまざまなケースを想定しアプローチのポイントについて理解する。

(到達目標)

脳血管障害後の片麻痺へのアプローチの基礎となる運動療法の理論を理解し、さまざまなケースに対する技法を学生同士で実践することが出来る。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	脳卒中片麻痺に対するステージ別のアプローチの目的について	寺師 拓斗	講義
2	2	麻痺側が低緊張のケース(上肢・下肢・体幹)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
3	2	麻痺側の分離運動が出来ないケース(上肢・下肢)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
4	2	寝返り・起き上がりが出来ないケースに対して	寺師 拓斗	講義・演習
5	2	静的座位姿勢が安定しないケース①(円背姿勢・麻痺側・非麻痺側への傾きなど)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
6	2	静的座位姿勢が安定しないケース②(前方・後方への安定性が低い場合など)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
7	2	椅子からの立ち上がりが安定しないケース、床からの立ち上がりが上手くないケースに対して	寺師 拓斗	講義・演習
8	2	立位時に問題となるケース(支持なしでの立位・ロッキング・膝折れ)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
9	2	立位時に問題となるケース(麻痺側への荷重不足・プッシャー現象)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
10	2	歩行時に問題となるケース(上肢の作用が著明・感覚障害・立脚期の内反)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
11	2	歩行時に問題となるケース(ロッキング・膝折れ・蹴り出しが不足)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
12	2	歩行時に問題となるケース(歩幅が狭い・立脚期が短い・尖足)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
13	2	歩行時に問題となるケース(遊脚期の内反・振り出しが困難・分回し)に対して	寺師 拓斗	講義・演習
14	2	歩行時に問題となるケース(体幹後傾での振り出し・遊脚期の股関節屈曲や内転が著明・すり足)に	寺師 拓斗	講義・演習
15	2	まとめ	寺師 拓斗	講義

総括的評価

定期試験にて60点以上の者を合格とする。
終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：標準理学療法学 神経理学療法学 第2版 吉尾 雅春、森岡 周、阿部 浩明 編集 医学書院
標準理学療法学 運動療法学 各論 第4版 吉尾 雅春、横田 一彦 編集

参考書：特になし

その他の資料：必要に応じて配布します。

担当教員から

運動療法Ⅱの講義で学んだ中神経疾患に対する運動療法の基礎をしっかりと理解したうえで、実技が行えるように予習や復習を行い講義に望むようにしてください。
さまざまなケースに対するアプローチを実技を学生同士で模倣できるように疾患やステージ別の特徴を理解したうえで講義に臨みましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士としての医療機関や介護保険分野での臨床経験を持つ担当教員がその経験を活かし、演習を中心に教授していきます。

2年次 前期（1単位：20時間）

（授業概要）

物理療法の概要を理解し、目的に応じて適切な物理療法を実施することができるようになる。

（到達目標）

各物理療法の適応と禁忌を考慮して実施することができる。
各物理療法の注意点を踏まえ、実施手順を正確に行うことができる。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	温熱療法の作用・効果	立石 洋	講義
2	2	温熱療法（ホットパック、パラフィン浴、極超短波）	立石 洋	講義
3	2	寒冷療法（アイスマッサージ、アイスパック）	立石 洋	演習
4	2	電気刺激療法（低周波：SSP、干渉波療法）	立石 洋	講義
5	2	電気刺激療法（低周波：SSP、干渉波療法）	立石 洋	講義
6	2	超音波療法	立石 洋	演習
7	2	超音波療法	立石 洋	講義
8	2	機械的刺激療法（頸椎、腰椎牽引）	立石 洋	演習
9	2	水治療法（水の物理的作用、温度による作用、部分浴（渦流浴、気泡浴）、全身浴）	立石 洋	講義
10	2	光線療法（赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法）	立石 洋	演習

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：
医学書院eテキスト標準理学療法学 物理療法学 第5版

参考書：

その他の資料：
教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

演習時は機能訓練室もしくは治療室を使用します。場所の予約をお願いします。
演習時にはTシャツ、短パンなど肌を露出しやすい服装をしてきてください。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床現場において患者の疼痛緩和、可動域改善などの目的のために物理療法をどのように行うのか、その具体的な考え方、方法を理学療法士としての臨床経験を活かし教授します。

2年次 後期(1単位:30時間)

(授業概要)

物理療法の概要を理解し、目的に応じて適切な物理療法を実施することができるようになる。

(到達目標)

各物理療法の適応と禁忌を考慮して実施することができる。
各物理療法の注意点を踏まえ、実施手順を正確に行うことができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	症例に合わせた物理療法の演習 ・グループ学習にて各治療法についてのマニュアルを作成する。 ・作成したマニュアルをもとにシェア学習を行い、各治療機器の操作を練習する。	立石 洋	講義
2	2		立石 洋	演習
3	2		立石 洋	演習
4	2		立石 洋	講義
5	2		立石 洋	演習
6	2		立石 洋	演習
7	2		立石 洋	演習
8	2		立石 洋	演習
9	2		立石 洋	演習
10	2		立石 洋	演習
11	2		立石 洋	演習
12	2		立石 洋	演習
13	2	OSCE実施(症例提示(5症例程度)に対し症例に合わせた治療法の選択、治療技能を実施する)	立石 洋	演習
14	2		立石 洋	演習
15	2	リフレクション(OSCEの動画を見てグループディスカッションを実施)	立石 洋	演習

総括的評価

終講後に筆記試験(50点分)実施する。マニュアル提出(20点分)、実技試験(30点分)と合算し60点以上のものには単位を認定する。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:
医学書院eテキスト標準理学療法学 物理療法学 第5版

参考書:

その他の資料:
教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

演習時は機能訓練室もしくは治療室を使用します。場所の予約をお願いします。
演習時にはTシャツ、短パンなど肌を露出しやすい服装をしてきてください。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床現場において患者の疼痛緩和、可動域改善などの目的のために物理療法をどのように行うのか、その具体的な考え方、方法を理学療法士としての臨床経験を活かし教授します。

理学療法学科 2年次 後期(1単位:20時間)

(授業概要)

高齢者や障害者が住み慣れた地域で生活するために、生活環境支援の基本的理念と関連法規を理解し、地域環境も含めた環境整備における理学療法士の役割を把握する。また、対象者の活動・参加と環境の相互作用を考え、生活支援のための生活環境評価や住環境整備の方法について理解を深める。更に、様々な疾病や障害によって生ずる不自由さの軽減を目的とした住環境整備の具体的方策や福祉用具の活用方法について、提案方法及び対処法を実践的に習得する。

(到達目標)

- ①高齢者や障害者の生活支援における住環境整備・福祉用具の活用の重要性を説明できる。
- ②基本的理念、関連制度について説明することができ、住環境整備に関する理学療法士の役割及び専門性を理解できる。
- ③日本の生活様式の変遷や課題について説明する事ができる。
- ④老年期症候群、あるいは疾病や障害の状況を踏まえた環境整備について提案することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	生活環境論(総論) ICF(国際生活機能分類)、用語の定義、社会保障制度の概要	岩森 俊	講義
2	2	住宅改修の基本技術について① 段差解消、手すりの設置、設備機器の把握、移動、幅員、日本家屋の構造(戸)等の把握	岩森 俊	講義
3	2	生活環境整備の留意点① 肢体不自由、高次脳機能障害、脊髄損傷者、内部障害者の住環境整備について	岩森 俊	講義
4	2	生活環境整備の留意点③ 脊髄小脳変性症、筋委縮性側索硬化症、脳性麻痺、切断者の住環境整備について	岩森 俊	講義
5	2	住環境についての考え方(意義、流れと留意点等) 住環境についての諸制度について	岩森 俊	講義
6	2	障害別住環境整備① 脳卒中、廃用症候群、骨折、認知症、関節リウマチ、パーキンソン病について	岩森 俊	講義
7	2	部屋別の住環境整備について① 浴室、トイレ、更衣(着脱衣)・洗面・整容、キッチン、就寝、部屋別の照明等について	岩森 俊	講義
8	2	福祉用具の種類と機能について 福祉用具に関する法律、制度、車椅子、クッション、リフト、排泄用具、入浴用具等について	岩森 俊	講義
9	2	基本動作に関連する福祉用具の種類と機能について 二次障害予防、腰痛予防について	岩森 俊	講義
10	2	基本動作に関連する福祉用具の種類と使用方法について① 特殊寝台、ポジションニング、リフト、スライディングシート、グローブ、ボード等について	岩森 俊	講義・演習

総括的評価

終講後に実技(2割程度)筆記(8割程度)試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件などはカリキュラムガイダンスを参照

教科書:標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院
標準理学療法学 運動療法学 各論 医学書院

参考書:千住秀明監修「生活環境論」2006、神陵文庫

その他の資料:
適宜、資料を配布します。

担当教員から

講義の内容は適宜変更する可能性があります。
なおこの授業の内容は必要に応じて変更する事があります。

実務経験のある教員による実践的授業

住環境整備、福祉用具の専門家(福祉用具プランナーを取得)の立場から、医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を教授し、適切な住宅改修プランなどの事例紹介・福祉用具使用方法の演習等、実践的な講義を展開します。

2年次 前期(1単位：30時間)

(授業概要)

骨関節疾患や脳・神経筋疾患などにより運動機能障害を呈した人に対して適切な装具療法が実施できるようになるために、装具の名称や基本的な構造と機能を理解できるよう講義する。

(到達目標)

- ①疾患や障害に適した装具の選択や装具療法を理解する。
- ②障害に適した選択ができるようになるために、種類、目的、適応使用方法を理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	装具学総論	吉野 慶子	講義
2	2	下肢装具の部品とその機能	吉野 慶子	講義
3	2	短下肢装具・長下肢装具	吉野 慶子	講義
4	2	特殊な下肢装具①	吉野 慶子	講義
5	2	特殊な下肢装具②	吉野 慶子	講義
6	2	下肢装具のチェックアウト	吉野 慶子	講義・演習
7	2	靴型装具①(靴の構造、ヒールの補正)	吉野 慶子	講義
8	2	靴型装具②(ソール・内部の補正)	吉野 慶子	講義
9	2	疾患別装具の処方	吉野 慶子	講義
10	2	体幹装具	吉野 慶子	講義
11	2	側弯症装具	吉野 慶子	講義
12	2	上肢装具①(肩関節コントロール・BFO)	吉野 慶子	講義
13	2	上肢装具②(肘・手関節コントロール)	吉野 慶子	講義
14	2	上肢装具③(指コントロール・手関節駆動式把持装具)	吉野 慶子	講義
15	2	車椅子・歩行補助具	吉野 慶子	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：佐伯覚 編集「義肢装具学」, 医学書院

参考書：

その他の資料：

担当教員から

障害を持った上で生活してゆくために必要な装具・自助具について学びます。これらは技術の進歩や生活スタイルの変化に伴って時代とともに変遷しています。この授業計画は一部変更になる可能性があります。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として装具療法に関わってきた経験から、さまざまな種類の装具を紹介し、理学療法においてどのように装具が用いられるのか教授する。

2年次 後期（1 単位：30 時間）

（授業概要）

下肢切断を中心に、義肢の構造とその操作に必要な身体機能、理学療法、理学療法士の役割を知る。

（到達目標）

切断のリハビリテーションにおいて、理学療法士は、断端機能を改善させ、適合した義肢で生活動作が獲得できるよう理学療法を実施する。そのため、
 ①切断のリハビリテーションの流れを理解する。
 ②義肢の構造と機能、アライメントを理解する。
 ③理学療法士の役割を理解する。

（授業計画）

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	切断と義肢の基礎知識	吉野 慶子	講義
2	2	断端と断端管理	吉野 慶子	演習
3	2	下腿切断・サイム切断の基本と義足	吉野 慶子	講義
4	2	下腿義足・サイム義足のアライメント①	吉野 慶子	講義・演習
5	2	下腿義足・サイム義足のアライメント②	吉野 慶子	講義・演習
6	2	大腿切断・膝離断の基本と義足	吉野 慶子	講義
7	2	大腿義足と膝義足のアライメント①	吉野 慶子	講義・演習
8	2	大腿義足と膝義足のアライメント②	吉野 慶子	講義・演習
9	2	股離断・片側骨盤切除・足部切断の基本と義足	吉野 慶子	講義
10	2	股義足のアライメント	吉野 慶子	講義・演習
11	2	下腿切断の評価	吉野 慶子	演習
12	2	義足装着前理学療法	吉野 慶子	講義・演習
13	2	義足装着理学療法と応用動作	吉野 慶子	演習
14	2	義手の分類と構造・機能	吉野 慶子	講義
15	2	まとめ	吉野 慶子	講義

総括的評価

出席状況、小テスト、筆記試験による

教科書：佐伯覚「義肢装具学」, 医学書院

参考書：

その他の資料：

担当教員から

障害を持った上で生活してゆくために必要な義肢について学びます。これらは技術の進歩や生活スタイルの変化に伴って時代とともに変遷しています。授業に臨むにあたり、メディアやインターネットなどの情報を基に、これら生活を支援についての関心を高めおいて下さい。この授業計画は一部変更になる可能性があります。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として切断患者に関わり、義足装着訓練を行った経験から、義足の種類・構造などの知識的な面のみならず、心理的側面からもどのようにアプローチするのか教授する。

2年次 前期 (1単位: 30時間)

(授業概要)

解剖学、生理学で学んだ基礎知識を基に、中枢神経系の様々な疾患の病態を理解し、障害を学ぶ。また、障害に対する理学療法評価の知識を教授する。

(到達目標)

- ① 中枢神経系の様々な疾患の病態や障害のメカニズムを理解する。
- ② 障害に対する理学療法評価の実施ができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	神経系の構造、機能① (神経系の全体像と大脳の構造・大脳皮質)	中森 健二	講義
2	2	神経系の構造、機能② (辺縁系・基底核・間脳・脳幹)	中森 健二	講義
3	2	神経系の構造、機能③ (小脳・脳動脈系)	中森 健二	講義
4	2	脳血管障害 総論 (脳血管障害とは、脳卒中とは、脳血管障害に関わる病態等)	中森 健二	講義
5	2	画像の見方 (CT・MRIの基本的な読影方法)	中森 健二	講義
6	2	脳出血① (被殻、視床、脳幹、皮質下、小脳)の画像、病態と治療を学ぶ	中森 健二	講義
7	2	脳出血② (被殻、視床、脳幹、皮質下、小脳)の画像、病態と治療を学ぶ	中森 健二	講義
8	2	くも膜下出血の画像、病態と治療を学ぶ、脳動脈奇形、もやもや病	中森 健二	講義
9	2	脳梗塞① (TIA・アテローム性・心原性・ラクナ・頸動脈狭窄症)の画像、病態と治療を学ぶ	中森 健二	講義
10	2	脳梗塞② (TIA・アテローム性・心原性・ラクナ・頸動脈狭窄症)の画像、病態と治療を学ぶ	中森 健二	講義
11	2	脳梗塞③ (TIA・アテローム性・心原性・ラクナ・頸動脈狭窄症)の画像、病態と治療を学ぶ	中森 健二	講義
12	2	頭部外傷 (硬膜外出血・硬膜下出血・脳挫傷・びまん性軸索損傷)の画像、病態と治療を学ぶ	中森 健二	講義
13	2	頭部外傷 (硬膜外出血・硬膜下出血・脳挫傷・びまん性軸索損傷)の画像、病態と治療を学ぶ	中森 健二	講義
14	2	脳腫瘍 (脳腫瘍の病態を学ぶ)	中森 健二	講義
15	2	脳腫瘍 (脳腫瘍の病態を学ぶ)	中森 健二	講義

総括的評価

単元ごとの確認テスト、定期試験(筆記試験)を実施。合格者には単位を認定する。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照する。

教科書: 病気がみえる(脳・神経): メディックメディア

参考書: 理学療法の理論と実践: メジカルビュー
 理学療法リスク管理マニュアル: 三輪書店
 ベッドサイドの神経の診かた: 南山堂

その他の資料:

担当教員から

前半は、1年次の解剖、生理学の復習を中心に行いますので、復習をしっかりと行ってください。

実務経験のある教員による実践的授業

急性期、回復期を中心に、生活維持期まで多くの脳血管障害のリハビリテーションに携わってきた臨床での経験を活かし、事例等を紹介しながら疾患や障がいの知識を教授する。

2年次 後期 (1単位:30時間)

(授業概要)

神経・筋疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目標とする。具体的には神経・筋障害の病態及び理学療法評価、理学療法治療学について系統的に学習する。

(到達目標)

神経・筋疾患および末梢神経神経損傷の病態と障害像について理解する。
各疾患の理学療法評価と治療の進め方、留意点について理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	神経・筋疾患の概要(P-266、P-302)	中森 健二	講義
2	2	神経変性疾患:筋萎縮性側索硬化症(病態と障害像と理学療法)	中森 健二	講義
3	2	神経変性疾患:筋萎縮性側索硬化症(病態と障害像と理学療法)	中森 健二	講義
4	2	神経変性疾患:パーキンソン病(病態と障害像と理学療法)	中森 健二	講義
5	2	神経変性疾患:パーキンソン症候群(病態と障害像)①進行性核上性麻痺②大脳皮質基底核変性症 ③脳血管性、Huntington病	中森 健二	講義
6	2	神経変性疾患:脊髄小脳変性症(多系統萎縮症)の病態・障害像	中森 健二	講義
7	2	神経変性疾患:脊髄小脳変性症(失調症の理学療法)	中森 健二	講義
8	2	脱髄性疾患:多発性硬化症(病態と障害像と理学療法)	中森 健二	講義
9	2	脱髄性疾患:多発性硬化症(病態と障害像と理学療法)	中森 健二	講義
10	2	末梢神経疾患:ギランバレー症候群(病態と障害像と理学療法)	中森 健二	講義
11	2	末梢神経疾患:シャルコー・マリー・トウス病、糖尿病性ニューロパチー(病態・障害像と理学療法)	中森 健二	講義
12	2	神経筋接合部疾患:重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群(病態と障害像と理学療法)	中森 健二	講義
13	2	筋疾患:筋ジストロフィー(病態・障害像と理学療法)	中森 健二	講義
14	2	筋疾患:筋ジストロフィー(病態・障害像と理学療法)	中森 健二	講義
15	2	筋疾患:多発性筋炎・皮膚筋炎(病態・障害像と理学療法)	中森 健二	講義

総括的評価

単元ごとの確認テスト、定期試験(筆記試験)を実施。試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照する。

教科書:病気が見える 脳・神経 ・ ベッドサイドの脳神経の診方 ・ 理学療法ハンドブック 第1巻・第3巻

参考書:病気がみえる 免疫・膠原病・感染症

その他の資料:必要に応じて資料を配布する。

担当教員から

各疾患の理学療法については、基本的考えをリスク管理等を含め考えていくようにする。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として変性疾患、神経筋疾患等のリハビリテーションに従事した経験から、臨床場面において症例を担当した時にどのように評価を行うのか、状態に合わせた治療プログラムの設定、および治療方法を教授する。

2年次 前期(1単位： 30時間)

(授業概要)

臨床において接する機会が多い整形外科疾患、骨関節障害の病態について講義する。
またそれぞれの疾患に合わせた評価、運動療法などを講義する。

(到達目標)

整形外科疾患、骨関節障害の病態について理解し説明できる。
各疾患に適切な評価や運動療法について理解し、自分で選択できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	骨関節系理学療法概念	寺師 拓斗	講義
2	2	骨関節系理学療法概念	寺師 拓斗	講義
3	2	変形性股関節症	寺師 拓斗	講義
4	2	変形性股関節症(アクティブラーニング)	寺師 拓斗	演習
5	2	変形性膝関節症	寺師 拓斗	講義
6	2	変形性膝関節症(アクティブラーニング)	寺師 拓斗	演習
7	2	下肢骨折	寺師 拓斗	講義
8	2	下肢骨折(アクティブラーニング)	寺師 拓斗	演習
9	2	上肢骨折	寺師 拓斗	講義
10	2	上肢骨折(アクティブラーニング)	寺師 拓斗	演習
11	2	肩関節疾患	寺師 拓斗	講義
12	2	肩関節疾患(アクティブラーニング)	寺師 拓斗	演習
13	2	脊椎疾患	寺師 拓斗	講義
14	2	脊椎疾患(アクティブラーニング)	寺師 拓斗	演習
15	2	まとめ	寺師 拓斗	講義

総括的評価

アクティブラーニングの取り組みおよび提出物の内容(20%)、定期試験(80%)

教科書:①標準理学療法学 骨関節疾患理学療法 第2版 吉尾 雅春 監修 医学書院
②標準整形外科学第15版、中村利孝・松野丈夫監修、医学書院
③病気が見える

参考書:理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 骨関節障害理学療法学 対馬 栄暉、有馬 慶美 編集 文光堂

担当教員から

本講義の理解のためには、解剖学で学んだ骨、関節・靭帯の構造や整形外科の講義で学んだ疾患の理解が必要となりますので、復習を行い理解を深めるようお願いします。

実務経験のある教員による実践的授業

急性期、回復期における整形外科疾患のリハビリテーションの経験を活かし事例等を紹介しながら疾患や障がいの知識を教授する。

2年次 後期(1単位： 30時間)

(授業概要)

骨関節理学療法は、神経系理学療法と双璧をなす重要な分野あり、関節や軟部組織の評価と治療はその他の領域の基礎と考えられている。それら骨関節障害に対する理学療法評価や治療技術を学習する。

(到達目標)

骨関節障害の特性を学習し、リハビリテーションにおける理学療法の役割を理解する。
リスクを考慮しながら評価や治療の計画を立案することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	膝靭帯、半月板損傷の理学療法(外傷の概要、機能評価)	藤村 勇人	講義
2	2	膝靭帯、半月板損傷の理学療法(機能評価、運動療法)	藤村 勇人	講義
3	2	膝靭帯、半月板損傷の理学療法(機能評価、運動療法)	藤村 勇人	講義
4	2	腱断裂の理学療法(腱板断裂とは、腱板断裂の評価、腱板断裂術後の理学療法)	藤村 勇人	講義
5	2	腱断裂の理学療法(アキレス腱断裂)	藤村 勇人	講義
6	2	腱断裂の理学療法(手指腱断裂)	藤村 勇人	講義
7	2	関節リウマチの理学療法(疾患・障害の概要、疾患・障害の評価)	藤村 勇人	講義
8	2	関節リウマチの理学療法(疾患・障害の評価、理学療法の実際)	藤村 勇人	講義
9	2	足部・足関節の理学療法(疾患・障害の概要、理学療法評価)	藤村 勇人	講義
10	2	足部・足関節の理学療法(理学療法評価、理学療法の実際)	藤村 勇人	講義
11	2	骨端症の理学療法(骨端症とは、骨端症とメカニカルストレス、骨端症を呈する疾患)	藤村 勇人	講義
12	2	頸椎疾患の理学療法(疾患・障害の概要)	藤村 勇人	講義
13	2	頸椎疾患の理学療法(理学療法評価、理学療法評価とアプローチ)	藤村 勇人	講義
14	2	側弯症の理学療法(側弯症の特徴、側弯症の評価)	藤村 勇人	講義
15	2	側弯症の理学療法(側弯症の評価、運動療法)	藤村 勇人	講義

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。提出されたレポートを基に評価を行う。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学【電子版】. 福井勉, 小柳磨毅編. 医学書院
標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ. 第3版【電子版】. 鶴見隆正, 辻下守弘編. 医学書院

参考書：理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト骨関節障害理学療法学. 対馬栄輝, 有馬慶美編. 文光堂
標準整形外科学第14版. 中村利孝, 松野丈夫監修. 医学書院

その他の資料：教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

解剖学、生理学、運動学がすべての基礎となり、さらに各障害に対する理学療法の特性を学びます。1年時の復習を確実にし講義に臨んでください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として医療保健分野や介護保険分野での臨床経験を持つ担当教員がその経験を活かし、事例等を紹介しながら疾患や障がい
の知識を教授する。

2年次 前期(1単位：20時間)

(授業概要)

脊髄の解剖、脊髄損傷の症状、合併症、理学療法評価、対麻痺・四肢麻痺の理学療法、及びADL・APDLを考え、治療と管理、生活を見据えた理学療法を学ぶ。

(到達目標)

脊髄損傷の基本的評価と病態像を理解する。
 脊髄損傷の機能・構造障害と日常生活活動の評価法を理解する。
 損傷高位と獲得できる基本動作能力、日常生活活動の関係を把握する。
 起居・移乗・移動動作の練習方法と指導の要点を理解する。
 脊髄損傷固有の合併症について推論しその管理方法を述べる事が出来る。
 脊髄損傷者の排泄管理に関する方法を述べる事が出来る。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	脊髄損傷とは(原因、病態生理、神経学的評価)	竹内 直人	講義
2	2	脊髄損傷の診断・評価 (神経学的評価、重症度評価神経学的高位診断、横断的局在診断)	竹内 直人	講義
3	2	脊髄障害の特徴、完全麻痺と不全麻痺、痙性麻痺と弛緩性麻痺、脊髄不全障害特殊型(ブラウンゼカール症候群、中心性損傷、前部損傷)	竹内 直人	講義
4	2	随伴症状・合併症とその対策 (呼吸障害、排尿尿路障害、消化管障害、循環障害と肺塞栓、自律神経障害、痙縮、疼痛、褥瘡、骨関節障害、性機能障害、外傷性空洞症、心理)	竹内 直人	講義
5	2	急性期の処置(保存的療法、観血的療法) 急性期保存療法における安静固定期の理学療法	竹内 直人	講義
6	2	急性期の呼吸理学療法 (合併症予防、排痰法、呼吸法、咳嗽法)	竹内 直人	演習
7	2	保存療法における安静固定期の理学療法 (ポジショニング他動運動と伸張運動、筋力維持と筋力練習)	竹内 直人	演習
8	2	保存療法における離床前期の理学療法 (血管運動神経調節の再教育、姿勢感覚の再教育)	竹内 直人	講義
9	2	観血的療法における急性期の理学療法 回復期の理学療法(残存筋力強化・代償機能の確立、基本動作・ADL)	竹内 直人	講義
10	2	回復期の理学療法(車椅子：移乗・操作・除圧、立位歩行練習) 障害者スポーツとは(車椅子バスケットを通して)	竹内 直人	演習

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
 試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書：標準理学療法学 神経内科学 第5版 医学書院
 標準理学療法学 運動療法学 各論 医学書院

参考書：理学療法ハンドブック 第3巻 細田多穂、柳澤健 編 協同医書出版社。
 標準整形外科学 第12版 松野丈夫、中村利孝 医学書院。

その他の資料：教科書の補足として、適宜、スライド配布資料、他ハンドアウトを配布することがあります。

担当教員から

演習時には運動が出来る服装を準備してください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として脊髄損傷患者のリハビリテーションに従事しており、車いすバスケットボール競技のトレーナーとしても活動している。その経験を活かし病院での治療のみならず、脊髄損傷患者の社会活動、障がい者スポーツについても教授する。講義の中で脊髄損傷患者の方にも来校してもらい、麻痺の状態を実際に確認させてもらう。また車イスバスケットボール選手の方にも来校してもらい、車イスバスケットボールも体験してもらう。

2年次 前期(1単位: 20時間)

(授業概要)

熱傷の病態, 理学療法について理解する。
脈管系末梢循環障害の代表的な疾患の病態を理解する。一般的な治療法および理学療法について理解する。

(教育目標)

1. 熱傷の理学所見をとることで、理学療法治療を説明できる。
2. 動脈系・静脈系・リンパ系の末梢循環の機能と代表的な疾患の病態を説明できる。
3. 各疾患の理学所見をとることで、重症度・原因・鑑別点を判断できる。
4. 病期に応じた理学療法の目的を説明することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	熱傷について診断と評価を説明	田川	講義
2	2	熱傷について治療を説明	田川	講義
3	2	熱傷について理学療法を説明	田川	講義
4	2	閉塞性動脈硬化症・バージャー病・Raynaud症候群について診断と治療の概略を説明	田川	講義
5	2	閉塞性動脈硬化症・バージャー病・Raynaud症候群について理学療法評価と介入を説明	田川	講義
6	2	大動脈瘤・大動脈解離について診断と治療の説明	田川	講義
7	2	深部静脈血栓症について診断と治療の概略を説明	田川	講義
8	2	深部静脈血栓症について理学療法評価と介入を説明	田川	講義
9	2	リンパ浮腫について診断と理学療法治療を説明	田川	講義
10	2	まとめ	田川	講義

総括的評価

定期試験(筆記試験)を実施し、合格者には単位を認定する。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照

教科書:「病気がみえる 循環器 第3版」(メディックメディア)

参考書:「現代リハビリテーション医学 改訂第3版」千野 直一 編(金原出版)
「内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版」細田 多穂 監修(南山堂)
「理学療法ハンドブック(改訂第3版) 第3巻」細田 多穂 他 編(共同医書出版社)

その他の資料: 授業開始前までに別途指示する

担当教員から

現在、内部障害系疾患は身体障害の基礎疾患に占める割合が多くなり、理学療法の主要な分野となっている。外から見えにくい内部障害の病態を理解するために、まずは循環器系の解剖と生理を復習しておくこと、介入の中心となる運動療法については、各症例におけるガイドラインやリスク管理を理解することです。内部障害のリハビリテーションに興味をもてるように自ら学習していく姿勢で取り組んで下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士として実務経験のある教員が、臨床経験を踏まえた講義・演習を説明・指導します。

2年次 前期(1単位:30時間)

(授業概要)

呼吸・循環系、代謝系を中心とする内部障害に対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を修得する。

(到達目標)

- 1) 呼吸器疾患における様々な病因を正確に理解し説明することができる。
- 2) 呼吸理学療法において必要となる評価方法、治療手技について説明し、実施できる。
- 3) 呼吸器疾患に対しての様々な治療と、その治療に合わせた呼吸理学療法について説明することができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	呼吸不全の基準、呼吸不全のタイプと原因 酸素化不全と換気不全	立石 洋	講義
2	2	換気障害の分類 呼吸困難感の分類	立石 洋	講義
3	2	酸塩基平衡障害の分類	立石 洋	講義
4	2	国際的ガイドラインであるGOLDにおける重症度分類と治療選択、EBMなど	立石 洋	講義
5	2	フィジカル・アセスメント(視診、触診、打診、聴診)	立石 洋	講義・演習
6	2	動脈血液ガスの評価 呼吸機能の評価(スパイロメトリー／フローボリューム曲線)	立石 洋	講義・演習
7	2	画像所見の評価		
8	2	運動耐容能の評価(6MWT、SWT)	立石 洋	講義
9	2	コンディショニングの種類と目的、リラクゼーション 呼吸練習(口すぼめ呼吸、横隔膜呼吸、インセンティブ・スパイロメトリー) 呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニング	立石 洋	講義・演習
10	2	体位排痰法、Squeezing、他	立石 洋	講義
11	2	酸素療法、在宅酸素療法	立石 洋	講義
12	2	SWTによる運動強度の設定 その他の基準による運動強度の設定(心拍数、Borg scale) 運動負荷強度の設定	立石 洋	講義
13	2	運動療法の実際 ADLトレーニング	立石 洋	講義・演習
14	2	体位排痰法、Squeezing、他	立石 洋	講義
15	2	人工呼吸器の原理、人工呼吸器の基本的モード、人工呼吸器からの離脱(ウィーニング) 周術期における呼吸理学療法の目的とその方法、注意点など	立石 洋	講義・演習

総括的評価

終講後に筆記試験を実施し合格者には単位を認定する。
試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:
医学書院eテキスト標準理学療法学 内部障害理学療法学 第2版
病気がみえるvol.4 第2版. 医療情報科学研究所編. メディックメディア.

参考書:

その他の資料:

担当教員から

1年次の生理学で講義した呼吸器の内容を復習していると理解しやすいと思います。講義の際に生理学の資料も持参してください。

実務経験のある教員による実践的授業

理学療法士、3学会合同呼吸療法認定士として急性期の呼吸管理から、呼吸器疾患の呼吸リハビリテーション、在宅・ターミナルケアでの呼吸療法まで従事した経験から、臨床場面において症例を担当した時にどのようにデータの分析、評価を行うのか、状態に合わせた治療プログラムの設定、および治療手技の選択を教授する。

2年次 後期(1単位: 20時間)

(授業概要)

循環器疾患それぞれに起因する運動・機能障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識をもとに、その理学療法(リスク管理・評価・運動療法・物理療法・ADL指導・生活環境支援)の理論と技術を習得し、臨床応用できる基礎を系統的に学習する。
 具体的には循環器の解剖・生理を復習し、循環器疾患の各論をまとめる。また虚血性心疾患と心不全および末梢循環障害の評価および理学療法について学習する。

(到達目標)

心臓リハビリテーションは包括的リハビリテーションであり、医師をはじめ看護師、MSW、作業療法士、薬剤師、栄養士との関わりが重要である。そのことを認識し理学療法士の役割を理解する。
 理学療法士は、心臓そのものにほとんど関与することはできないが、運動療法を行うことで酸素搬送系に対し介入することが可能である。心臓の障害という大きなリスクを負った患者に、安全で速やかに社会復帰できるような運動処方とリスクに対する自己管理への教育的指導ができることが理学療法士の目標となる。リスクに基づく運動負荷方法は、各施設また担当医により特徴があるので、ここでは基本的な捉え方を簡単に述べる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	心臓の解剖及び生理学について	榎並 両一	講義
2	2	心臓の機能と神経調節、刺激伝導系	榎並 両一	講義
3	2	循環器疾患各論(虚血性心疾患、心不全、弁膜症、末梢動脈疾患等)	榎並 両一	講義
4	2	循環器疾患と治療法について(食事療法、薬物療法、運動療法、外科的治療等)	榎並 両一	講義
5	2	心電図について	榎並 両一	講義
6	2	不整脈について	榎並 両一	講義
7	2	理学的評価・リスクと問題点について	榎並 両一	講義
8	2	心臓リハビリテーション	榎並 両一	講義
9	2	運動処方の実際	榎並 両一	講義
10	2	まとめ	榎並 両一	講義

総括的評価

小テスト・定期試験結果にて総合的に判断する。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書: 「病気がみえる 循環器」(メディックメディア)
 「病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌」(メディックメディア)

参考書:
 内部障害理学療法学(医歯薬出版)、理学療法ハンドブック1・3巻、基礎運動学、老人のリハビリテーション、理学療法リスク管理マニュアル

その他の資料:
 適宜資料の配付を実施

担当教員から

循環器疾患に対する解剖、生理学を理解した上で、疾患の病態を理解すると共に、理学療法の理論的背景を理解しながら、全身状態の把握及び身体の残存機能を最大限に引き出すために必要な知識を習得できるようになる。
 また、これらの対象者は高齢者であることが多く、理学療法を行う上で必要なリスク管理についても合わせて習得する。

実務経験のある教員による実践的授業

心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環)の資格を有する理学療法士がその経験を活かし、基礎的知識や事例等をもとに、臨床での経験を交え教授する。

2年次 後期 (1単位: 20時間)

(授業概要)

本科目の授業では、①内分泌・代謝システムが生体の動的恒常性維持に極めて重要であることをその解剖、生理、病理に対する知識から理解する。②その破綻状態である、内分泌・代謝疾患ではホルモン特異的ならびに臓器・組織特異的に多彩な症状が出現することも理解し、体系的な評価法および治療計画立案、指導という一連の治療活動が一人で決定でき、指導者の下で実施可能になることである。

(到達目標)

代謝障害のメカニズムや合併症に対し、生理学的裏づけを元に理解し、リスク管理を行いながら糖尿病を中心に理学療法を実践できる。具体的には、
 ①代謝疾患(特に糖尿病)の病態生理、運動の重要性、運動療法の実際を理解できる。また各種生化学検査の数値を解釈できる。
 ②食事療法・薬物療法・運動療法を正しく理解し、患者の一日の身体活動量と生活行動に介入できる(正しい運動指導が行える)。
 ③糖尿病の急性合併症と慢性合併症を理解し、対処方法や進行を防止するためのADL指導ができる。
 これらを目標とする。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	栄養と代謝の生理学について	榎並 両一	講義
2	2	糖質代謝と脂質代謝の総論	榎並 両一	講義
3	2	代謝疾患各論(糖代謝障害、脂質代謝障害、骨代謝障害など)	榎並 両一	講義
4	2	糖尿病についての概念、発生機序、アプローチの概要等	榎並 両一	講義
5	2	糖尿病の症状、診断と検査について	榎並 両一	講義
6	2	合併症について	榎並 両一	講義
7	2	代謝疾患と治療法について(食事療法、薬物療法、運動療法等)	榎並 両一	講義
8	2	理学的評価・リスクと問題点について	榎並 両一	講義
9	2	運動処方実際	榎並 両一	講義
10	2	まとめ	榎並 両一	講義

総括的評価

小テスト・定期試験結果にて総合的に判断する。定期試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書: 「病気がみえる 循環器」(メディックメディア)
 「病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌」(メディックメディア)

参考書:
 内部障害理学療法学(医歯薬出版)、理学療法ハンドブック1・3巻、老人のリハビリテーション、理学療法リスク管理マニュアル

その他の資料:
 適宜資料の配付を実施

担当教員から

疾患別理学療法区は代謝疾患に対する理学療法で、「生理学」「臨床医学(内科学)」「理学療法」に大別できる。内部障害は生理学的な裏づけが必要なため苦手な学生も多い。しかし、これらの対象者は高齢者であることが多く、理学療法を実施する上で必修なため、リスク管理についても合わせて習得する。

実務経験のある教員による実践的授業

心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環)の資格を有する理学療法士がその経験を活かし、基礎的知識や事例等をもとに、臨床での経験を交え教授する。

3 年次 前期 (1 単位 : 20 時間)

(授業概要)

医療統計の基礎を学修し、統計資料や研究論文を適切に読み解く能力を取得する。さらに、エビデンス(根拠)に基づく理学療法実践において、研究の基礎について、倫理的側面を含めて学ぶ。

(教育目標)

- 1.医療統計について理解する。
- 2.エビデンス(根拠)に基づく理学療法について理解する。
- 3.研究倫理について理解する。
- 4.研究方法について理解する。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	統計用語について	寺師 拓斗	講義
2	2	研究目的に応じた統計手法の選択について	寺師 拓斗	講義
3	2	代表的な統計手法の結果の読み方	寺師 拓斗	講義
4	2	エビデンスレベルについて	寺師 拓斗	講義
5	2	診療ガイドラインについて	寺師 拓斗	講義
6	2	研究対象者に対する倫理的配慮について	寺師 拓斗	講義
7	2	研究の意義について / 研究疑問・研究仮説について	寺師 拓斗	講義
8	2	研究疑問に応じた研究デザインについて	寺師 拓斗	講義
9	2	先行研究の検索について	寺師 拓斗	講義
10	2	まとめ	寺師 拓斗	講義

総括的評価

提出物(30%)と定期試験(70%)の合計で評価します。

教科書:「すぐにできるリハビリテーション統計」山本 澄子、谷 浩明 監修(南江堂)
標準理学療法学 理学療法研究法(第3版)内山 靖、島田 裕之 編集:医学書院

参考書:特になし

その他の資料:教科書の補足として、適宜、スライド配布資料を配布することがあります。

担当教員から

研究を理解し実践していく能力「研究能力」が重要視されています。医療人として、疑問をもち、調べ、必要に応じて研究し、それを発表し、現状を改善することが求められ、それは、患者にとって真に望ましい医療の提供することに繋がります。

実務経験のある教員による実践的授業

臨床に従事する傍ら大学院にて動物を用いた基礎研究を行っていた経験から、研究の意義や目的、研究の進め方、学会発表への流れなどを講義していきます。

2年次 前期(1単位: 30時間)

(授業概要)

理学療法士がどのように地域理学療法に関わるのか、どのような技術を発揮すべきかということについて、高齢者に限らず、障害児者についても具体的な指針を示す。また、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等といったサービス別の理解を進めることができるようにする。

(教育目標)

- 1) 地域理学療法の理念を説明できる。
- 2) 地域包括ケアシステムおよび、そのなかでの理学療法士の役割について説明できる。
- 3) 介護保険の仕組みを理解し、理学療法士が担う予防介護および介護サービスを説明できる。
- 4) 介護保険サービス下での理学療法の展開について理解できる。
- 5) 地域理学療法のリスクマネジメントについて説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	地域リハビリテーションの考え方①(制度の変遷とノーマライゼーションについて)	田川 知恵子	講義
2	2	地域リハビリテーションの考え方②(生活者としての対象者について)	田川 知恵子	講義
3	2	地域包括ケアシステムと地域連携	田川 知恵子	講義
4	2	介護保険制度①(介護保険の仕組みについて)	田川 知恵子	講義
5	2	介護保険制度②(ケアマネジメントと評価)	田川 知恵子	講義
6	2	介護保険サービスとその評価	田川 知恵子	講義
7	2	地域理学療法の展開①(介護予防について)	田川 知恵子	講義
8	2	地域理学療法の展開②(理学療法士の役割と展開について)	田川 知恵子	講義
9	2	地域理学療法の展開③(集団への対応について)	田川 知恵子	講義
10	2	地域理学療法の展開④(入院・入所から在宅への準備について)	田川 知恵子	講義
11	2	リスクマネジメント①(施設)	田川 知恵子	講義
12	2	リスクマネジメント②(訪問)	田川 知恵子	講義
13	2	リスクマネジメント③(体力増進とリスク管理)	田川 知恵子	講義
14	2	まとめ①	田川 知恵子	講義
15	2	まとめ②	田川 知恵子	講義

総括的評価

定期試験(筆記試験)を実施し、合格者には単位を認定する。終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:「地域理学療法学第4版」 牧田 光代・金谷 さとみ編集 (医学書院eテキスト)

参考書:「地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版」 細田 多穂 監修 (南江堂)

その他の資料: 授業開始前までに別途指示する

担当教員から

地域理学療法の対象は高齢者が主体であり、複合的な状態へ対処するための知識や多様な環境下での理学療法が必要となってくる。介護保険領域における理学療法士の支援を含め、総合的な視点から地域理学療法について学習してください。

実務経験のある教員による実践的授業

地域理学療法の専門家(介護支援専門員・認定理学療法士(地域理学療法)を取得済)の立場から、事例等を紹介し実践的な講義を展開します。

2年次 後期(2単位: 30時間)

(授業概要)

理学療法士がどのように地域リハビリテーションに関わるのか、どのような技術を発揮すべきかということについて、高齢者に限らず、障害児・者に関しても具体的な指針を示す。また、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等といったサービス別の理解を進めることができるようにする。

(教育目標)

- 1) 在宅における生活行為を中心とした理学療法評価について説明できる。
- 2) QOL増大のための理学療法士のかかわりについて説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	地域理学療法の実際①-脳血管障害-	田川 知恵子	講義
2	2	地域理学療法の実際②-骨折-	田川 知恵子	講義
3	2	地域理学療法の実際③-慢性呼吸不全-	田川 知恵子	講義
4	2	地域理学療法の実際④-神経変性疾患-	田川 知恵子	講義
5	2	地域理学療法の実際⑤-脊髄損傷-	田川 知恵子	講義
6	2	地域理学療法の実際⑥-成人脳性麻痺-	田川 知恵子	講義
7	2	地域理学療法の実際⑦-認知症-	田川 知恵子	講義
8	2	地域理学療法の実際⑧-終末期における在宅理学療法-	田川 知恵子	講義
9	2	QOLの増大に向けて①-障害者とスポーツ-	田川 知恵子	講義
10	2	QOLの増大に向けて②-小児理学療法-	田川 知恵子	演習
11	2	QOLの増大に向けて③-地域における健康増進-	田川 知恵子	演習
12	2	QOLの増大に向けて④-自主グループ活動への支援-	田川 知恵子	演習
13	2	生活環境の整備①-在宅改修-	田川 知恵子	演習
14	2	生活環境の整備②-福祉用具・社会資源-	田川 知恵子	講義
15	2	生活環境の整備③-シーティング-	田川 知恵子	講義

総括的評価

演習課題についてまとめたものをレポートとして提出する。および、定期試験(筆記試験)を実施し、合格者には単位を認定する。終講試験の受験要件、実施方法などはカリキュラムガイダンスを参照。

教科書:「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第4版」 牧田 光代, 金谷 さとみ編集(医学書院eテキスト)

参考書:「地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版」 細田 多穂 監修 (南江堂)

その他の資料: 授業開始前までに別途指示する

担当教員から

地域理学療法の対象は高齢者が主体であり、複合的な状態へ対処するための知識や多様な環境下での理学療法が必要となってくる。介護保険領域における理学療法士の支援を含め、総合的な視点から地域理学療法について学習してください。

実務経験のある教員による実践的授業

地域理学療法の専門家(介護支援専門員・認定理学療法士(地域理学療法)を取得済)の立場から、事例等を紹介し実践的な講義を展開します。

授業科目名: 総合特論 I

担当教員: 立石洋
田川知恵子
中森健二
吉野慶子
寺師拓斗
藤村勇人
谷口慶子
俵積田大志

3年次 後期(2単位: 60時間)

(授業概要)

国家試験を目標に専門基礎分野の基礎医学と臨床医学を再学習する。

(到達目標)

・解剖学、運動学、生理学の基本事項を確認する。
・内科学、整形外科学、神経内科学、小児科学、精神医学、臨床心理学、リハ概論について理解を深める。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	脳の解剖・生理	中森 健二	講義
2	2	頭部MRI・CTの見方	中森 健二	講義
3	2	錐体路・伝導路、感覚受容器・経路、視覚、聴覚について	田川 知恵子	講義
4	2	呼吸器の解剖、排尿機構	立石 洋	講義
5	2	神経筋支配、筋収縮様式	吉野 慶子	講義
6	2	心臓の解剖・生理	寺師拓斗	講義
7	2	手・足部のアーチ、手根管、靭帯	吉野 慶子	講義
8	2	てこ、関節反力の計算、モーメントの求め方	吉野 慶子	講義
9	2	歩行・バイオメカニクス	吉野 慶子	講義
10	2	体温の生理、呼吸の生理	立石 洋	講義
11	2	ホルモン	立石 洋	講義
12	2	免疫・アレルギー	田川 知恵子	講義
13	2	自律神経、末梢神経障害	中森 健二	講義
14	2	膠原病	立石 洋	講義
15	2	呼吸器疾患	立石 洋	講義
16	2	循環器疾患	中森 健二	講義
17	2	脳血管障害	中森 健二	講義
18	2	神経筋疾患	中森 健二	講義
19	2	肝臓疾患、肝硬変の誘因・症状	藤村勇人	講義
20	2	腎不全の原因・症状、人工透析	藤村勇人	講義
21	2	代謝・内分泌疾患	田川 知恵子	講義
22	2	卒業研究概論	田川 知恵子	講義
23	2	整形外科疾患のCT・MRIの見方	寺師拓斗	講義
24	2	整形外科的テスト・整形疾患の運動療法	寺師拓斗	講義
25	2	小児疾患、小児の運動発達	田川 知恵子	講義
26	2	リハ概論	田川 知恵子	講義
27	2	記憶と心理療法について	谷口 慶子	講義
28	2	心理テストと発達心理	谷口 慶子	講義
29	2	統合失調症・てんかん	俵積田 大志	講義
30	2	パーソナリティ障害、その他の精神疾患	俵積田 大志	講義

総括的評価

出席状況、および筆記試験をもとに評定する。

教科書: 医療情報科学研究所編: クエスチョン・バンク理学療法士作業療法士共通問題, メディックメディア

参考書: 各種必要な書籍

その他の資料: 必要に応じて配布

担当教員から

国家試験対策につながります。知識が広がるよう、わからないところはその都度勉強に励んでください。
なお、必要に応じてこの授業の内容を変更することがあります。

授業科目名: 総合特論Ⅱ

担当教員: 立石洋
田川知恵子
中森健二
吉野慶子
寺師拓斗
藤村勇人

3年次 後期(2単位: 60時間)

(授業概要)

国家試験を目標に理学療法専門分野を再学習する。

(到達目標)

基礎医学分野の理解を基礎とし、理学療法の専門問題について理解を深める。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	2	学習曲線・運動学習	吉野 慶子	講義
2	2	動作と筋活動	吉野 慶子	講義
3	2	物理療法	立石 洋	講義
4	2	MMT	寺師拓斗	講義
5	2	ROM-T	藤村勇人	講義
6	2	関節可動域訓練・CPM, 自己筋伸張法	吉野 慶子	講義
7	2	筋力増強訓練, PNFアプローチ	吉野 慶子	講義
8	2	整形外科疾患と治療	寺師拓斗	講義
9	2	整形外科疾患各種ステージ分類	寺師拓斗	講義
10	2	末梢神経障害・絞扼性神経障害	寺師拓斗	講義
11	2	高次脳機能障害に対するアプローチ	中森 健二	講義
12	2	異常歩行と理学療法	中森 健二	講義
13	2	立位保持と歩行訓練	中森 健二	講義
14	2	神経筋疾患の症状と分類・治療・運動療法①	中森 健二	講義
15	2	神経筋疾患の症状と分類・治療・運動療法②	中森 健二	講義
16	2	脊髄損傷	田川 知恵子	講義
17	2	脊髄損傷の理学療法	田川 知恵子	講義
18	2	ICF, 小児のADL評価	田川 知恵子	講義
19	2	脳血管障害のADL指導	田川 知恵子	講義
20	2	介護保険制度, 医療福祉関連法規	田川 知恵子	講義
21	2	感染予防, インフォームドコンセント	田川 知恵子	講義
22	2	動作とエネルギー消費・運動強度・運動負荷強度	吉野 慶子	講義
23	2	心電図の基本・読み取り	立石 洋	講義
24	2	心疾患理学療法	立石 洋	講義
25	2	最大酸素摂取量・酸素摂取量の計算, 呼吸商	立石 洋	講義
26	2	体位ドレナージ, 呼吸不全	立石 洋	講義
27	2	熱傷, がん疾患の理学療法	立石 洋	講義
28	2	小児疾患と理学療法	田川 知恵子	講義
29	2	切断と義肢	吉野 慶子	講義
30	2	装具療法	吉野 慶子	講義

総括的評価

出席状況、および筆記試験をもとに評定する。

教科書: 医療情報科学研究所編: クエスチョン・バンク理学療法士専門問題, メディックメディア

参考書: 各種必要な書籍

その他の資料: 必要に応じて配布

担当教員から

国家試験対策につながります。知識が広がるよう、わからないところはその都度勉強に励んでください。
なお、必要に応じてこの授業の内容を変更することがあります。

授業科目名: 見学実習

担当教員: 寺師 拓斗
田川 知恵子
臨床実習指導者

1年次 前期(1単位: 40時間)

(授業概要)

病院・施設等のリハビリテーション部門及び各部門の機能と役割を理解するために見学・体験実習を行う。社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察・対応・実践力を身につける。

(教育目標)

- 1 保健医療・福祉施設の役割や理学療法業務を見学を通して理解する。
- 2 付属病院の各部門の見学を通して、各専門職の役割やチーム医療の実際を見学する。
- 3 理学療法評価の実際とその評価結果にもとづくプログラミングまでの構造を理解する。
- 4 筋力増強や関節運動など運動療法に関する業務への理解を深める。
- 5 温熱療法や電気刺激療法など物理療法業務への理解を深める。
- 6 杖・補装具や車椅子の意義やその取り扱いについて理解する。
- 7 患者や家族指導の実際を見学する。
- 8 理学療法の経過報告の在り方や記録の重要性について理解する。
- 9 患者ケアやユニット運営に関する看護業務への理解を深める。
- 10 職業的・教育的リハビリテーションにかかわる各部門との連携の在り方について把握する。
- 11 他学科の学生とともに各施設での実習内容を報告し、体験を共有する

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	8	オリエンテーション・見学	臨床実習指導者, 他理学療法教務	臨床実習
2	8	1. 病院見学実習ーリハビリテーション部門ー【理学療法評価・運動療法・徒手療法・物理療法・ADL】他部門等ー【作業療法・言語療法・栄養指導・画像診断】	臨床実習指導者, 他理学療法教務	臨床実習
3	8	2. 病院見学実習ーリハビリテーション部門ー【理学療法評価・運動療法・徒手療法・物理療法・ADL】他部門等ー【作業療法・言語療法・栄養指導・画像診断】	臨床実習指導者, 他理学療法教務	臨床実習
4	8	オリエンテーション・見学	臨床実習指導者, 他理学療法教務	臨床実習
5	8	1. 病院見学実習ーリハビリテーション部門ー【理学療法評価・運動療法・徒手療法・物理療法・ADL】他部門等ー【作業療法・言語療法・栄養指導・画像診断】	臨床実習指導者, 他理学療法教務	臨床実習

総括的評価

出席、レポート、実習態度などを総合的に評価する

教科書: 必要に応じて各自準備

参考書: 必要に応じて各自準備

その他の資料: デイリーノートおよび各種届出用紙を準備
白衣、実習靴、ネームプレートなど

担当教員から

学外のリハビリテーション関連施設の見学や理学療法場面の見学を通して、理学療法士や他の医療専門職への理解を深めます。この実習内容は必要に応じて変更することがあります

2年次 前期(2単位: 80時間)

(授業概要)

評価実習の中に位置づけた検査測定実習は、理学療法士に必要な自己問題解決能力をより高めることを教育目標の1つとする3年次臨床実習の入門的な授業科目と言える。この自己問題解決能力を高めるためには、「受動的な学習、教え・教えられる学習」ではなく「能動的な学習、自ら学ぶ学習」を身に付けていく必要がある。具体的には、臨床実習指導者(以下、指導者)の行う理学療法業務の見学と指導者との積極的な“やりとり”、更に担当した患者様の観察・調べ、検査測定を行い客観的に正確なデータを収集する。一連の実習を通して、患者様の問題点を解決するための基本的な考え方を身につける。

(到達目標)

- 1 医療関係者として倫理を守ることができる。
- 2 自己を含めて、実習現場の衛生保持に積極的に協力する。
- 3 理学療法士としての資質を高める。
- 4 正しく自己紹介できる。
- 5 患者様、指導者、関連職員との良好なコミュニケーションを得る。
- 6 指導者の行っている個々の理学療法業務について、説明できる。
- 7 積極的に質問できる。
- 8 指導者の行っている個々の理学療法業務の関連性を説明できる。
- 9 医療記録から必要な情報の収集ができる。
- 10 評価に関する協力を依頼することができる。
- 11 十分なリスク管理を行うことができる。
- 12 評価中の指示は礼儀正しく、はっきりと聞き取れるように行うことができる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	40	オリエンテーション、患者の基本情報収集・患者の観察・調べ	臨床実習指導者、 他理学療法教務	臨床実習
2	40	臨床実習指導者の指導のもとに、与えられた症例に対して、観察・調べ、検査測定を行い客観的な正確なデータを収集する。	臨床実習指導者、 他理学療法教務	臨床実習

総括的評価

臨床実習指導者及び学生の報告書、発表授業への参加度、出席状況を含めて総合的に判断する。

教科書: 必要に応じて各自準備

参考書: 必要に応じて各自準備

その他の資料: チェックリストおよびデイリーノート、各種届出用紙を準備
白衣、実習靴、ネームプレートなど

担当教員から

実際の患者様に協力いただいて本格的に行う初めての实習科目です。技術の实習に留まらず、人間としての接し方なども含めての实習の場と捉えて、自分のとるべき態度・行動について良く考えてから実習に臨んで下さい。また、実習の進捗度は実習先の諸事情に大きく影響を受けることを心得ておいて下さい。必要に応じてこの授業の内容を変更する事があります。

2年次 後期(4単位: 160時間)

(授業概要)

評価実習は、理学療法士に必要な自己問題解決能力をより高めることを教育目標の1つとする3年次臨床実習の入門的な授業科目と言える。この自己問題解決能力を高めるためには、「受動的な学習、教え・教えられる学習」ではなく「能動的な学習、自ら学ぶ学習」を身に付けていく必要がある。具体的には、臨床実習指導者(以下、指導者)の行う理学療法業務の見学と指導者との積極的な「やりとり」、更に担当した患者様の問題点の推測・必要な評価の実施・問題点の再検討・目標・治療計画の作成・理学療法の一部実施までの一連の実習を通して、患者様の問題点を解決するための基本的な考え方を身につける。

(到達目標)

- 1 医療関係者として倫理を守ることができる。
- 2 自己を含めて、実習現場の衛生保持に積極的に協力する。
- 3 理学療法士としての資質を高める。
- 4 正しく自己紹介できる。
- 5 患者様、指導者、関連職員との良好なコミュニケーションを得る。
- 6 指導者の行っている個々の理学療法業務について、説明できる。
- 7 積極的に質問できる。
- 8 指導者の行っている個々の理学療法業務の関連性を説明できる。
- 9 医療記録から必要な情報の収集ができる。
- 10 評価に関する協力を依頼することができる。
- 11 十分なリスク管理を行うことができる。
- 12 評価中の指示は礼儀正しく、はっきりと聞き取れるように行うことができる。
- 13 担当した患者様に関して、「問題点の推測・必要な評価の実施・問題点の再検討・治療目標・治療計画の作成・理学療法の一部実施」までの一連の実習を行う。
- 14 指導者に「問題点の推測～治療計画の立案まで」の決定過程とその理由説明ができる。
- 15 指導者の助言の下に治療計画を修正できる。
- 16 実習報告会で、「問題点の推測～治療計画の立案まで」の決定過程及びその理由説明ができる。
- 17 実習報告会に積極的に参加し、患者様の問題点を解決するための考え方について再確認する

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1	40	オリエンテーション、臨床実習指導者の指導のもとに、与えられた症例に対して、患者の基本情報収集・患者の観察を行う。検査測定を行い客観的な正確なデータを収集する。	臨床実習指導者、他理学療法教務	臨床実習
2	40	担当患者様を通して、検査測定を行い客観的な正確なデータを収集する。	臨床実習指導者、他理学療法教務	臨床実習
3	40	担当患者様を通して、問題点の推測～治療計画の作成・理学療法の一部実施【問題点の推測、評価、治療目標、治療計画の作成】	臨床実習指導者、他理学療法教務	臨床実習
4	40	担当患者様の評価再検討、問題点の再検討、治療目標の再検討、治療計画の再検討、施設・学内報告会の実施【報告会】	臨床実習指導者、他理学療法教務	臨床実習

総括的評価

臨床実習指導者及び学生の報告書、発表授業への参加度、出席状況を含めて総合的に判断する。

教科書：必要に応じて各自準備

参考書：必要に応じて各自準備

その他の資料：チェックリストおよびデイリーノート、各種届出用紙を準備
白衣、実習靴、ネームプレートなど

担当教員より

検査測定実習に引き続き患者様に協力いただいで行う実習科目です。検査測定に留まらず、問題点の抽出、治療目標、治療計画まで作成する。人間としての接し方なども含めての実習の場と捉えて、自分のとるべき態度・行動について良く考えてから実習に臨んで下さい。また、実習の進行度は実習先の諸事情に大きく影響を受けることを心得ておいて下さい。必要に応じてこの授業の内容を変更する事があります。

3年次 前期（ 8単位：320時間 ）

(授業概要)

小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者に接し、医療提供施設のみならず地域を含めた医療および地域リハビリテーションの目的を把握することに努める。学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習を行う。これまでに学んだ理学療法の知識・技能をもとに、臨床実習指導者の指導のもとで、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定という一連の理学療法過程を習得できるようにする。

(到達目標)

- 1.医療専門職に相応しい責任ある態度・積極的な行動ができる。
- 2.患者のもつ問題点やその原因を把握するために、必要かつ適切な評価を行うことができる。
- 3.評価結果をもとに具体的な治療目標・計画立案ができる。
- 4.実習指導者の指導のもとで適切な治療訓練が一部実施できる。
- 5.理学療法士業務として必要な記録および報告について説明できる。
- 6.在宅障害者に対し理学療法の必要性を理解し説明できる。
- 7.チームの一員として連携の方法とサービス提供について説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1～8	320	1.実習前学習・評価を行う。 実技試験により、総合的知識及び基本的技能・態度を評価する。 2.医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習を行い、実習目標が達成できるよう実習を行う。 臨床実習指導者の指導のもとに、与えられた症例に対して、基本的理学療法を実施する。 【理学療法評価、治療計画立案、目標設定、情報収集、チーム医療など】 3.実習終了後、学内での実習報告会などを実施し、実習後評価を行う。 4.地域理学療法実習を組み込む、通所リハ・訪問リハを体験する。	臨床実習指導者・理学療法学科教員	臨床実習

総括的評価

各施設において、実習指導者によって実習目標にもとづいた具体的項目について評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の評価、報告会、出席状況、参加態度などを総合的にみて、教育目標が達成できたと判断された場合に合格とする。

教科書：必要に応じて各自準備

参考書：必要に応じて各自準備

その他の資料：
 デイリーノートおよび各種届出用紙を準備
 白衣、実習靴、ネームプレートなど

担当教員から

臨床実習指導者の助言や指導を素直に受け止め、患者や指導者に対し誠意をもって接するよう努めること。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。

3年次 前期(8単位： 320時間)

(授業概要)

小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者に接し、医療提供施設のみならず地域を含めた医療および地域リハビリテーションの目的を把握することに努める。学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習を行う。これまでに学んだ理学療法の知識・技能をもとに、臨床実習指導者の指導のもとで、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定という一連の理学療法過程を習得できるようにする。

(到達目標)

- 1.医療専門職に相応しい責任ある態度・積極的な行動ができる。
- 2.患者のもつ問題点やその原因を把握するために、必要かつ適切な評価を行うことができる。
- 3.評価結果をもとに具体的な治療目標・計画立案ができる。
- 4.実習指導者の指導のもとで適切な治療訓練が一部実施できる。
- 5.理学療法士業務として必要な記録および報告について説明できる。
- 6.在宅障害者に対し理学療法の必要性を理解し説明できる。
- 7.チームの一員として連携の方法とサービス提供について説明できる。

(授業計画)

回	時間	授業内容	担当教員	教授・学習法
1～8	320	1.実習前学習・評価を行う。 実技試験により、総合的知識及び基本的技能・態度を評価する。 2.医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習を行い、実習目標が達成できるよう実習を行う。 臨床実習指導者の指導のもとに、与えられた症例に対して、基本的理学療法を実施する。 【理学療法評価、治療計画立案、目標設定、情報収集、チーム医療など】 3.実習終了後、学内での実習報告会などを実施し、実習後評価を行う。 4.4.地域理学療法実習を組み込む、通所リハ・訪問リハを体験する。	臨床実習指導者、他理学療法教務	臨床実習

総括的評価

各施設において、実習指導者によって実習目標にもとづいた具体的項目について評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の評価、報告会、出席状況、参加態度などを総合的にみて、教育目標が達成できたと判断された場合に合格とする。

教科書：必要に応じて各自準備

参考書：必要に応じて各自準備

その他の資料：デイリーノートおよび各種届出用紙を準備
白衣、実習靴、ネームプレートなど

担当教員から

臨床実習指導者の助言や指導を素直に受け止め、患者や指導者に対し誠意をもって接するよう努めること。なおこの授業の内容は必要に応じて変更することがあります。